



経験をかへ

ワタシ、ときどき、”即自”。

守る気持ちは衰えない――



予備自衛官 和田一尉
即応予備自衛官 道喜士長



予備自衛官標旗



即応予備自衛官
シンボルマーク



予備自衛官補標旗

予備自衛官等制度ウェブサイト



スマートフォンで
いますぐアクセス



- 予備自衛官 🔍
- 即応予備自衛官 🔍
- 予備自衛官補 🔍



第55号

はじめに

「パワーリザーブ」は、予備自衛官等教養資料として昭和四十五年に創刊され、「予備自衛官のしおり」の時代を加え、今年度で五十五号となります。本誌が全国の予備自衛官等の皆様の団結、退職予定隊員の予備自衛官等志願への一助となるよう、また、ご家族や雇用企業主の皆様の制度理解への一助になれるよう、共感できる体験談や関心を持てる記事を掲載しておりますので、ご一読いただければ幸いです。

予備自衛官等制度の概要 04

〈特集〉

令和五年度予備自衛官中央訓練 06

〈施策の広場〉

優秀隊員招待行事 23
防衛大臣感謝状受賞企業 24
協力事業所制度新規認定事業所 25
女性活躍 26

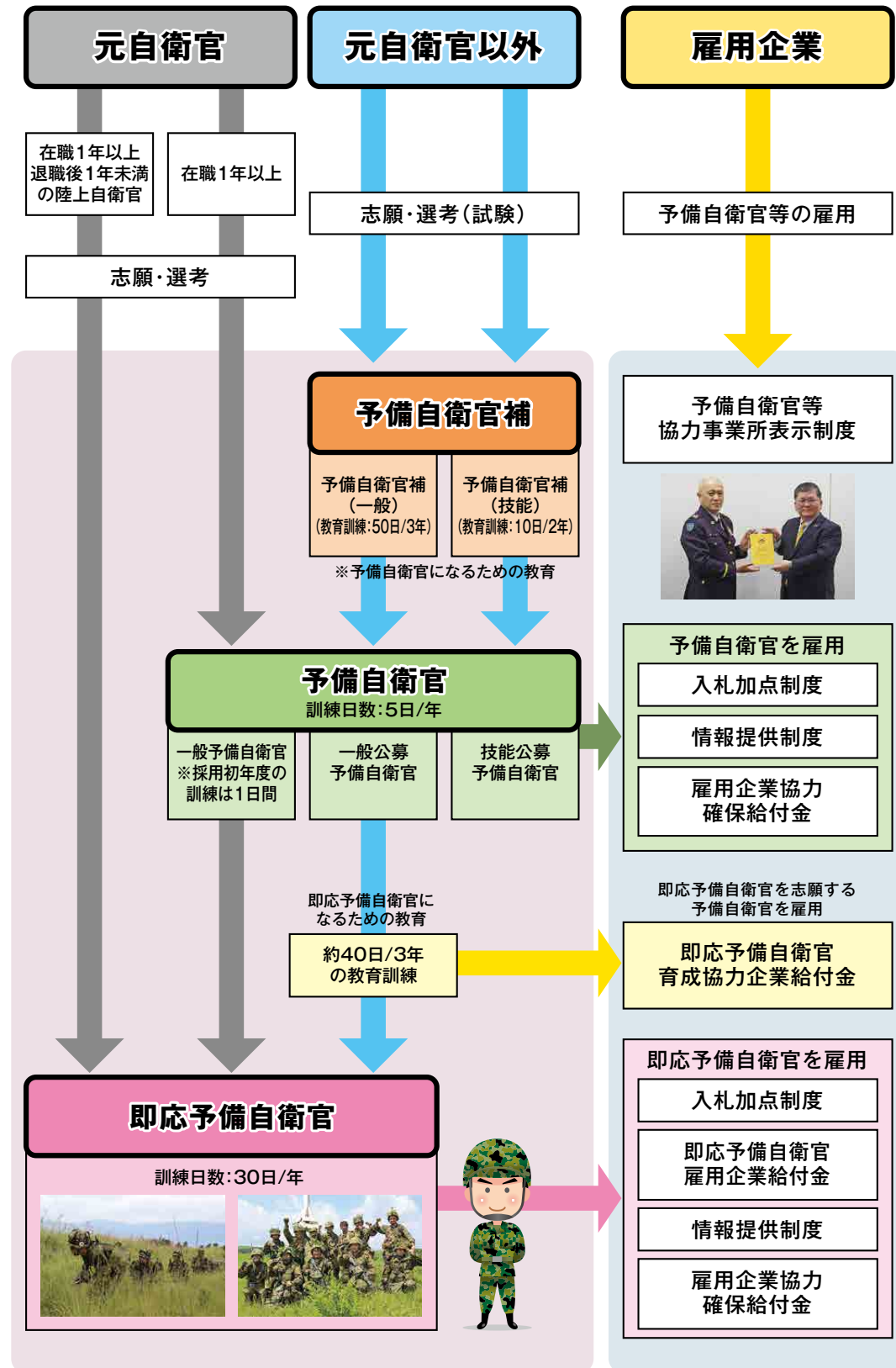
〈招集（教育）訓練の広場〉

予備自衛官招集訓練 30
即応予備自衛官招集訓練 31
予備自衛官補招集教育訓練 32
各部隊等の訓練・施策等紹介 33

〈仲間の広場〉

予備自衛官の仲間から 38
即応予備自衛官の仲間から 43
予備自衛官補の仲間から 44
雇用企業の皆様から 47
ご家族の皆様から 49
常備自衛官から 50
地方協力本部担当者から 51
予備自衛官等福祉支援制度のご案内 53
読者プレゼント 54

予備自衛官等の任用までの流れ



予備自衛官等制度の概要

3つの予備自衛官等制度

国家の緊急事態に当たっては、大きな防衛力が必要です。普段は、必要最小限の防衛力で対応し、いざという時に急速に集める事ができる予備の防衛力が必要となります。諸外国でも、いざという時に急速に戦力を増強するシステムを取り入れています。

わが国においては、これに相当するものとして、予備自衛官、即応予備自衛官及び予備自衛官補の3制度を設けています。

	予備自衛官 	即応予備自衛官 	予備自衛官補
導入年度	昭和29年度	平成9年度	平成13年度
有事の際の役割	第一線部隊が出動した時に、駐屯地の警備や後方支援等の任務に就きます。	第一線部隊等の一員として、現職自衛官とともに任務に就きます。	
招集区分	<ul style="list-style-type: none"> ●防衛招集 ●国民保護等招集 ●災害招集 ●訓練招集 	<ul style="list-style-type: none"> ●防衛招集 ●国民保護等招集 ●治安招集 ●災害等招集 ●訓練招集 	●教育訓練招集
平時における(教育)訓練日数	・5日/年 (3日間と2日間に分割可能です) <small>※方面総監が特に必要と認める場合、6日以上訓練に参加可能</small>	・30日(2日間~4日間程度の訓練を複数回)/年	・予備自衛官補(一般) 50日/3年以内 ・予備自衛官補(技能) 10日/2年以内 <small>※1回5日間</small>
員数	47,900人 [陸自:46,000人 海自:1,100人 空自:800人]	7,981人 (陸自のみ)	4,621人 [陸自:4,600人 海自:21人]
処遇等	<ul style="list-style-type: none"> ●予備自衛官手当 4,000円/月 ●訓練招集手当 8,100円/日 <small>※公募予備自衛官から即応予備自衛官任用への基本特技取得のための訓練招集手当は日額:8,300円</small>	<ul style="list-style-type: none"> ●即応予備自衛官手当 16,000円/月 ●訓練招集手当 14,200円~10,400円/日 ●勤続報奨金 120,000円/1任期(3年) 	●教育訓練招集手当 8,800円/日
雇用企業給付金		42,500円/月・人 (年額:510,000円)	
近年の予備自衛官即応予備自衛官の災害派遣招集実績	<ul style="list-style-type: none"> ●令和元年東日本台風(台風19号)(R1) ●新型コロナウイルスの感染拡大防止(R2) ●令和2年(2020年)7月豪雨(R2) ●令和6年(2024年)能登半島地震(R6) 	<ul style="list-style-type: none"> ●平成30年7月豪雨(H30) ●北海道胆振東部地震(H30) ●令和元年東日本台風(台風19号)(R1) ●令和2年(2020年)7月豪雨(R2) ●令和6年(2024年)能登半島地震(R6) 	
詳しくはこちら予備自HP			

※手当・給付金は、課税対象になります。

令和五年度 予備自衛官中央訓練

令和五年度 予備自衛官中央訓練を実施！

令和五年度予備自衛官中央訓練を実施しました。本訓練は、予備自衛官の魅力強化施策の一環として、知識及び技能の向上を図ることを目的として、東部方面總監部の支援を受け、全国より各地方協力本部長の推薦を受けた五十七名が朝霞、市ヶ谷駐屯地に招集され、通常の訓練では経験できない訓練等に参加しました。

二十六日は着隊式、二十七日は総合火力演習研修、法令教育及び警戒・検問訓練を実施し、二十八日は朝霞訓練場において陸上幕僚長視察のもと総合（警備）訓練を実施しました。

総合訓練では、外国人の出入門、ドローンによる偵察、外柵からの侵入対応、バトラーを装着した敵襲への応戦と、緊張あふれる訓練となり、参加者からは「通常の訓練では経験出来ないことばかりで貴重な時間となった。」「総合火力演習の迫りに圧倒された。」「担任部隊の丁寧な説明で有意義な時間を過ごせた。」「等の声もあり、大変充実した訓練となりました。」

二十九日は、市ヶ谷駐屯地の防衛省講堂において、陸上幕僚長訓示、永年勤続表彰者への表彰が実施されました。また、懇親会では訓練の労いを行うとともに親睦を深めることができました。

中央訓練でしか経験のできない有意義な訓練を終え、参加者は訓練を共にした仲間と別れ、名残惜しそくに帰路につきました。



受付・健康診断



国を愛する 素晴らしい仲間と 訓練に参加しました



自衛隊
旭川地方協力本部
予備三等陸佐
舟木 久隆

令和五年春「北鎮」の北海道富良野の地で、麗澤大学織田教授による防衛講和「私の国・故郷は私自らの手で守らねばなりません」とを拝聴した私は去る五月、中央訓練に参加しました。訓練の主題は、昨今の国外情勢に鑑み、第一線部隊が出動した際の駐屯地警備や後方支援任務など予備自衛官の主たる役割を再認識させるものでした。

訓練には私を含めた元自衛官とともに、医師や看護師等の優れた専門技能を有する技能公募予備自衛官が参加しており、日本を愛し、自衛隊の多様化する役割を背負って立つ心強い面々

訓練は、陸上幕僚長が視察される中、軽普通科中隊として輸送ヘリからの降下で開始され、3コ小隊は、老練な小隊長が隊員を掌握して、隊員相互に連携し入出門者の監視や重要施設の防護・巡察、予備隊の行動などにおいて、次々と現示されるゲリラ活動やドローン攻撃等への対処を行いました。私は中隊長として参加しましたが、技能公募予備自衛官の積極的できびきびとした動作は、各地域で行われる予備自衛官訓練や平素の体力錬成に裏打ちされた素晴らし

いもので、また、歩哨としての外国語対応は、技能公募予備自衛官ならではの敬意の念を覚えるとともに、第三十二普通科連隊の補助を受けながら、非常に有意義な訓練だったと感じています。さらに、陸上幕僚長から直接訓示を賜り、改めて予備自衛官としての使命を深く自覚致しました。

普段は別々の職域で活躍され

ている同室の公募予備自衛官に志願した理由を伺ったところ、「国民を守る自衛官を見て、私にもやれることがあるのでは」と思い立って志願したと聞いて深く感銘を受けました。国民の皆さんは自衛官の活動に関心をもつて、注目している証左です。



自衛隊
福島地方協力本部
予備二等陸曹
山口 喜一

この度、私はこれまでの即応予備自衛官・予備自衛官としての勤務経験等を評価していただき、令和五年五月二十六日から三十日まで実施された予備自衛官中央訓練に参加させていただきました。

中央訓練については先輩からの話なども聞いていましたので大変光栄に思いました。北は北海道から南は九州・沖縄までの予備自衛官が参加する中央訓練の規模の大きさに驚きました。輸送ヘリによる機動訓練や市

谷駐屯地研修の他、永年勤続表彰式では、陸上幕僚長から直接表彰を受けることができ、大変光栄に感じ、生涯忘れられない思い出となりました。

今回訓練に参加させていただいたことをきっかけに、私は改めて、過去の活動を振り返ってみました。二〇一一年三月十一日の東日本大震災では即応予備自衛官として自ら志願し災害派遣に参加しました。厳しい災害の現場でしたが、活動中に被災したお婆さんに掛けて貰った「ありがとう」の言葉に強く胸を打たれました。このことは私の中で一生忘れることができない出来事となりました。被災した人たちに逆に励まされ勇気を貰うことができた経験から、人の為に日夜訓練をしている即応予備自衛官であることを誇りに思う気持ちが一層強くなり、訓練に対し一層前向きに取り組むようになりました。

即応予備自衛官最後の部隊である宮城県第一〇二補給大隊



の皆様、大変お世話になりました。そして、最後になりますが福島地方協力本部予備自室の皆様、本当に有難う御座いました。心から感謝いたします。

総火演研修・法務教育



着隊式



とても贅沢な五日間 令和五年度予備自衛官 中央訓練に参加して



自衛隊
岩手地方協力本部
予備三等陸曹
芳本 治香

私は、令和五年度予備自衛官中央訓練に参加しました。

訓練初日は、着隊式の後、第三十二普通科連隊五中隊長の精神教育を受け、「任務分析をすることが普段の生活や仕事においても役に立ち、やるべき事(目標)が明確になる」ことを学びました。

二日目、富士総合火力演習研修でした。迫力ある戦車の射撃等を間近で感じ、気持ちが高ぶりました。

三日目、警備訓練において、初めて交戦訓練装置(バトラ)を着装し、空包を用いた巡察行動を実施し、小隊全員が高

い意識で取り組み、任務達成できたことはとても良い経験でした。また、初めてCH-47Jに搭乗でき、訓練規模の大きさに感動しました。

四日目、陸上幕僚長の訓示と永年勤続者表彰、市ヶ谷記念館見学を行いました。陸上幕僚長からの訓示において、「国際情勢が厳しく、災害もいつ起きてもおかしくない中、予備自衛官への期待は高まっており、普段は別の仕事をしながらも、予備自衛官として訓練に参加していることに敬意を表する」旨の激励のお言葉に、改めて予備自衛官としての誇りを感じました。最終日には、離隊式を実施し五日間の訓練を修了しました。

今回の中央訓練は、どの訓練も現役の自衛官でさえ経験することが少ない貴重な体験ばかりで、とても贅沢な五日間でした。このような機会に参加できたことに感謝し、今後も予備自衛官として国を衛る一員となれば幸いです。



自衛隊
東京地方協力本部
予備三等陸佐
佃 千春

予備自衛官となり三年目にし、予備自衛官中央訓練への参加をさせて頂きました。全般の流れとしては、今では民間の方は応募できないレアな富士総合火力演習の研修、機別訓練、総合訓練、市ヶ谷研修、永年勤続表彰式、陸上幕僚長訓示等です。当初中央訓練とは何をするのかわからず、過去の公式ホームページ等を参考にしたりと、毎年テーマが決められていました。

今回の演習の主要テーマは駐屯地の警備任務です。詳しい内容は警備に関する事なので記載することはできませんが、有事の際に常備駐屯部隊が防衛出動した後の駐屯地の警備任務の想定です。そうです、退官された皆さんが経験した警備や防衛隊地等の警戒要領で駐屯地を予

備自衛官で警備するのです。私は中隊長を補佐する幕僚勤務を実施しましたが、当時の経験が活かせることも演習最盛期だった頃を思い出していました。自衛官経験者なら恐らく要領等は理解していると思いますが、予備自衛官には公募の方が多く、普段は民間で仕事をされており、果たしてうまくいくのかが多少不安でした。自分たちの現役の時とは異なり、有事の際のグレイゾーンの判断がかなりウェイトを占め、またドローン等の近代戦にも対応が必要となります。訓練時には任務交代をする想定上の駐屯地までCH-47への搭乗により移動し、バトラも装着した本格的な訓練でした。(担当の方々のバトラの準備は本場所における訓練において、それぞれが真剣に実施して今後の資となったと思います。今回の訓練を通じて感じたことは、語学や医療分野の公募自衛官の必要性です。検問の際に

総合訓練 ①



令和五年度（五月二十六日から五月三十日）の間、予備自衛官中央訓練に参加しました。全国から選抜された優秀な予備自衛官が朝霞駐屯地に集結すると聞き、いつもの予備自衛官招集訓練より更に期待と緊張感を持ったものと成りました。二日目、自衛隊総合火力演習研修、三十二普通科連隊五中隊長の精神教育、射撃予習等。三日目、輸送ヘリを使用した機能別総合訓練、本格的な防衛出動時の警備訓練、防衛大臣から命令を受けて東部方面総監から現在招集されている予備自衛官に駐屯地警備の命令、実際の防衛出動時さながらの警備訓練となりました。四日目には市ヶ谷駐屯地において実施した、永年勤続三十年表彰式では、陸上幕僚長から直接表彰を受けて、大変光栄であり、一



自衛隊
神奈川地方協力本部
予備一等陸曹
長谷山 成樹

生涯の思い出に成り最高の気分になりました。本予備自衛官中央訓練を通じて、予備自衛官制度の重要性を更に深く認識する事が出来たとともに、有事等における予備自衛官の役割と必要性等について考える良い機会に成りました。

最後に、私に予備自衛官中央訓練に参加する機会を与えてくださった神奈川地方協力本部の方々、充実した素晴らしい訓練を担任された三十二普通科連隊五中隊の方々、陰に日向に訓練をサポートしてくださった陸幕の方々、本訓練に関係する全ての皆様に深く御礼を申し上げます。本当にありがとうございます。



機能別訓練



不審者は日本人とは限らないし、戦闘では必ず死傷者は発生します。もちろん有事には他にも法律の知識、自動車整備等様々な技術も必要となるでしょう。現在進行中の戦争状態にある国々を見れば、常備戦力だけでは戦闘を継続できないのは明白です。この予備自衛官中央訓練のような経験を積み重ねることが、いざとなったときに役に立つのだと思います。

今回は会社から休暇を調整して参加できましたが、もし訓練参加を希望する方は機会があれば是非とも参加したほうがよいと思います。とても貴重な経験ですし、国家の任務を遂行することがいかに誇り高い仕事だったかを退官してからひしひしと感じています。

最後に、予備自衛官中央訓練に関わった関係者の皆様、本当にありがとうございます。



陸上幕僚長訓示



総合訓練②



この度、朝霞駐屯地で行われた令和五年度予備自衛官中央訓練に参加させていただきました。本訓練は、全国から様々な経歴をもつ予備自衛官が集結し、被服交付、健康診断に始まり、そして訓練担任中隊長による精神教育を受けた後、夕刻に着隊式が執行されました。

訓練二日目は、東富士演習場にて総合火力演習を見学しました。炎天下の中、領域横断作戦



自衛隊
大阪地方協力本部
予備准陸尉
阿佐 泰史

下における島嶼侵攻対処の場面において、現代戦に不可欠な陸・海・空自衛隊の統合運用の要素と陸上自衛隊の火力戦闘の様相を目の当たりにして、まさに大迫力・圧巻の素晴らしい火力演習でした。事後、朝霞駐屯地に戻り、法務官による「駐屯地警備に必要な法務教育」を受講し、「武力の行使」と「武器使用」の差異について学びました。夕食後に行われたガンハンドリングの予習では、バトラー器材が装着された小銃の取扱いについて全員が真剣かつ集中的に演練しました。

訓練三日目の総合訓練では、我々予備自衛官に駐屯地警備の任務を付与されたとの想定のもと、CH-47（大型ヘリ）に搭乗し訓練地域まで移動しました。私は中隊本部の運用訓練幹部として本部要員と共に、各小隊の状況把握と巡回指導を行い、中隊に与えられた「検問・直接警戒・巡察・応急救護」の任務遂行に寄与しました。



自衛隊
埼玉地方協力本部
予備陸士長
道林 舞子

公募予備自衛官に任用され四年目を迎える私は、今回初めて令和五年度中央訓練に参加する機会を得ました。この訓練では、これまでの訓練とは違い、他の方面隊の隊員の方や様々な職種の方の隊員の方と共に訓練を行い、私にとって、貴重な訓練となり、充実したあつという間の五日間となりました。

特に駐屯地警備訓練では、自衛隊法や武力行使についての教育をはじめ、防衛出動時において想定される様々な状況での対応や無線機とバトラーを使用した巡察・警備加えてCH-47への搭乗を行う等、より高度な訓練内容であったと感じております。

また、指揮系統や分隊行動、通信の要領についても素人の私に丁寧にご説明して頂くとともに、実践的訓練をさせて頂いた事は、今後の訓練に重要な経験となりました。

さらに、市ヶ谷研修においては、陸上幕僚長から訓示を頂き、予備自衛官等への期待と国防を担う自衛隊の任務の重要性を再認識することが出来ました。

今回の中央訓練は、未経験のことが多く刺激を受けた事は私自身の士気向上に繋がり、予備自衛官としての任務に対する責任感がこれまで以上に高まったと感じております。今後は、この経験を招集訓練でも活かせるよう、積極的に励み、一緒にいる他の予備自衛官の方にもこの貴重な経験から培った知識を共有できればと思っております。

最後になりましたが、この度の貴重な中央訓練参加にあたり、サポートして下さった担当部隊並びに予備自衛官担当の皆様にご心よりお礼申し上げます。

市ヶ谷研修



予備自衛官に任命され、十八年目。

この度、予備自衛官中央訓練に出頭参加出来る機会をいただいた。出頭直前に退官された尊敬する佐官や尉官の方に報告し「節度と取り組む姿勢に留意して参加するように」「何事も臆することなく率先して全力で挑んでこい」と背中を力強く押し付けていただいた。

全国から優秀な予備自衛官が選抜され参加すると聞いていたので、未知なる訓練への期待とプレッシャーに押されながら朝霞駐屯地に着隊した。

今回の訓練内容は通常の訓練では体験する事の出来ない貴重な内容ばかりで記憶に残る五日間であった。

富士総合火力演習においては、領域横断作戦展開下、統合運用



自衛隊
滋賀地方協力本部
予備二等陸曹
平嶋 裕司

の要となる諸職種協同の火力戦闘を見学し理解を深めた。

機能別訓練、総合訓練では有事の際の駐屯地警護にあたり、警戒監視や歩哨に就いてそれぞれの隊により役割分担し各種事案に対し手順を踏みながらも無線にて本部とリアルタイムで迅速に連携をとり、任務を完遂できた。

ますます複雑化の度合いを深めて国際情勢下において、有事の際に予備自衛官として下達される可能性ある任務に、実際に演練し火器使用の決断と避難してきた国民の誘導対処などの難しさを鑑みて、改めて責務と重要性を痛感し、常に次を考えたながら周囲の状況を掌握する重要性を学んだ。

また今後の訓練出頭時に今回の反省点を生かして更なる練度の向上を強く心に刻んだ。

四日目には市ヶ谷防衛省に於いて、陸上幕僚長から直々に訓示をいただき、感動と奮起で身の引き締まる思いであった。

永年勤続表彰



訓練四日目は防衛省にて、森下陸上幕僚長から三〇年の職務精励の功績による永年勤続表彰を賜り、訓示において「貴重な戦力である予備自衛官は宝である。予備自衛官としての任務に誇りと責任感を持ち、己に勝ち、自衛隊と民間の懸け橋として周りの方に推進して欲しい。」というお言葉をいただきました。その後、市ヶ谷記念会館研修では貴重な展示資料を拝見しました。グラントビル市ヶ谷で行われた懇親会では、本訓練に参加した方々と懇親を深め、陸上幕僚長とツーショット写真を撮っていただき、夢のような時間が過ぎました。

訓練最終日の離隊式では、整斉と整列し、訓練参加者がチームとしての達成感にあふれ、予備自衛官標旗を返納し、訓練を終えました。

今回、訓練参加にあたり、招集訓練を担当していただいた三二普通科連隊五中隊の方々、細やかな調整と段取りをしていた



いただいた陸上幕僚監部人事教育部及び大阪地方協力本部の方々、お忙しい中、総合訓練の視察、永年勤続表彰式の執行、更に懇親会にまで参加いただいた陸幕長、そして最後に短い期間でありましたが、全国から招集訓練に参加された仲間たちとの「絆」に感謝し、なお一層気持ちを引き締めて招集訓練に励んでいきたいと思えます。

懇親会・離隊式



技能公募の私にも同室となった方々には大変よくしていただき、親交を深めながら様々な話も伺えて大変興味深かった。受け入れ担当の第三十二普通科連隊の皆様、私に機会を与えてくださった滋賀地域協力本部の皆様、他多くの方々のお力を借りながらの五日間であった。今後も自衛隊と国民を力強く結びつける懸け橋として、予備自衛官の責務を自覚し邁進していきたい。

離隊後、今回の訓練終了に感謝して靖国神社に参拝して帰路についた。



自衛隊
福井地方協力本部
予備一等陸曹
清水 憲史

予備自衛官に志願したのは、私の自動車整備士としての経験と技術で自衛隊を通じて、社会に貢献したいと考えたからです。技能公募という事で、予備自衛官補に十日間の訓練で付与された階級は、荷が重いと感じています。

今回、「中央訓練に参加しますか」と一本の電話が入り、「えっ私か。」と驚きましたが、同時に「わかりました」と即答していました。

しかし、返事をしてから、「大丈夫なのか。」「自衛隊の事を何にも知らず、だけど、こんなチャンスはない。」と思いつつも不安な気持ちでいっぱいでした。

当日、部屋は、元自衛官の方々が多数おり、「本当に訓練についていけるのか?」と、かなり

不安でしたが、皆様親しく接してください、いろいろお話しすることができ、不安を払拭することができました。

今回の訓練は、総合火力演習見学、総合訓練、市ヶ谷駐屯地にて表彰式及び展示品等の見学でした。

総合火力演習では、島嶼侵攻対処における陸海空の連携した戦闘や新型装備品の活躍、なかでも一六式機動戦闘車やUH2ヘリ、CV22航空機など、これからの防衛戦力の要を学ぶことができました。

総合訓練は有事の際、重要な任務となる駐屯地警護を想定付与され、ヘリによる部隊前進後、駐屯地巡視を担当しました。中でも、無線による状況伝達は、要点だけを正確に早く送らなくてはならないのは、意外に難しく感じました。状況中にドローンが侵入したのを確認しましたが、場所を具体的に本部に伝達する事に時間がかかっている間に、いなくなっていました。なかなか



今回、中央訓練に参加出来たことは、私にとって貴重な経験でした。

最後に、福井地本の担当者を始め、朝霞駐屯地並びに市ヶ谷駐屯地にてお世話頂きました皆様に、感謝いたします。

体験できない貴重な経験でした。市ヶ谷駐屯地では森下幕僚長訓示と表彰式が挙行され、先輩方の長年にわたる功績に敬意を表しますとともに、礎を継承していかなければならないと新たな気持ちになりました。見学は、歴史的貴重な展示品の解説を交えて見る事ができました。

今後、私が特技としている分野において、自衛隊車両の特徴や整備知識などを積極的に習得して、今までの経験と技術をパズルのように組み合わせ、役に立つように努力いたします。



自衛隊
岐阜地方協力本部
予備一等陸曹
梅田 宏晃

私が予備自衛官になったのはわずか四年前のことです。当時地域の為に何かしたいという気持ちで強く、自分の保有資格、技術、知識を生かし地域貢献ができるよう予備自衛官補（技能）を経て技能公募予備自衛官に志願致しました。普段の生活の中で自衛隊とは無縁で、私は当時自衛官に階級があることすらも知らないくらいでした。

そんな私は、以前から興味を持っていた中央訓練のお話しを地方協力本部の方からいただき、五日間連続で仕事を休む不安もありましたが、参加させていただくことに決めました。

今回の中央訓練は主に駐屯地警備でした。有事の際、駐屯地警備に必要な法律や座学、空包や通信機を使用しての実践さながらの訓練を行いました。自衛

官未経験の私にとっては観るもの、触れるもの全てが初めてで、装備品の装着方法、扱い方も分からずあたふたして戸惑うことばかりでしたが、現職自衛官をはじめ、同じ隊舎部屋の仲間、特に訓練中同じ班の自衛官経験者の方には多くのことを教えていただき、助けられ五日間無事終えることができました。

中央訓練を通して、予備自衛官本来の業務である駐屯地警備の他、なにより人として助け合いの心や利他の精神、感動、喜びなど多くを学べる場が中央訓練であったと思います。今回の訓練経験は私にとって沢山の出会いもあり、最高の宝です。本当に貴重な経験をさせていただきました。五日間ほんとうに楽しかったです。



自衛隊
島根地方協力本部
予備二等陸佐
寺戸 通久

人類が新型コロナウイルス蔓延に対して世界規模で対抗すること三年余り、ついに新型コロナウイルスが法定感染症分類第二類から第五類に格下げされた同じ月、令和五年度予備自衛官中央招集訓練が実施されました。当初、今回の訓練は技能公募予備自衛官を主に招集する予定だと地方協力本部予備自衛官班の担当官が知らせてくれたこともあり、訓練招集参加を決意し、開催前日に出頭先である朝霞駐屯地へ前進しました。例年、全国から選抜された予備自衛官が参加すると伺っていましたが今回も北は北海道、南は沖縄から招集された予備自衛官総員五十七名が参集し（うち技能公募予備自衛官は十七名）、普段の予備自衛官招集訓練で培ってきた技術技能を結集し五日間の訓練

に挑みました。

訓練内容は多彩で、戦闘訓練、一般公開されなくなった富士総合火力演習研修、防衛省視察、陸上幕僚長訓話、市谷記念館視察といった内容が五日間の訓練日程にギッシリ詰め込まれていました。

戦闘訓練は、常備自衛官が前線へ前進し手薄になった駐屯地の警備を行う目的で予備自衛官に防衛招集がかり、目的のある駐屯地に参集後、敵対勢力からの駐屯地攻撃に対して駐屯地警備を実施する、という内容でした。訓練参加者全員がバトラーを装備し空包を用いて防衛戦闘を行うという筋書きであり、被弾判定が非常にシビアであり実践的な訓練でした。私は中隊長でありながら戦闘指揮を行うことなく、空路で駐屯地深くに降着し、応急救護所設営を行い、前線から運ばれてくる傷病者のトリアージ、応急処置、生命の安定化を図り、さらに重傷者を後方に展開している野戦病

院に移動させる任務に就きました。訓練参加者のうち衛生職種は五名、中でも医官は自分一人という状況の中、応急救護班としてチームビルドを行い、救護班員全員が負傷することなく与えられた任務を完遂することを目標に掲げ活動しました。お互いが全くの初対面であるにも関わらず同じ職種であること、普段の予備自衛官招集訓練で自衛官としての教育訓練を重ねてきたことにより信じられないほどスムーズに任務遂行出来た事が今回の大きな成果であり、例年の予備自衛官招集訓練に参加する意義を改めて感じるきっかけとなりました。更に、各々の予備自衛官雇用元の皆様の、予備自衛官制度に対する深い御理解なくして予備自衛官制度を維持する事は不可能であり、各雇用主の皆様が我が国の国防に貢献して頂ける事と同義であると、強く感じました。何卒今後も引き続き予備自衛官制度に御理解を賜り、有事に際して我々が国

の盾となり得るため御高配をお願いできましたら幸甚に存じます。

末筆になりましたが今回の訓練担当中隊の皆様の周到な準備と正確な時間管理により前述しました多彩な訓練を経験する事が出来ました。訓練中は中々御礼を申し上げる機会をえず、この場をお借りして訓練参加者を代表して心から御礼を申し上げます。ありがとうございます。



自衛隊
鹿児島地方協力本部
予備二等陸曹
一戸 孝子

予備自衛官になって二十年が過ぎ、今回、初めて予備自衛官中央訓練に参加させていただきました。訓練は五月二十六日（金）から三十日（火）までの間実施され、全国から五十七名が朝霞駐屯地に招集されました。三十二普通連五中隊長の精神教育から始まり、富士総合火力演習の研修、総合訓練では、輸送への搭乗やバトラーを装着しての訓練等、普段の訓練ではできない貴重な経験をさせていたたたき有意義なものとなりました。四日目は、陸上幕僚長より直接永年勤続表彰を受け、ここまで続けられたのも家族の支えがあってこそ勤務先の理解があるお陰だなど感謝の気持ちでいっぱいになりました。また、市ヶ谷記念館の研修、懇親会もあり親睦を深めることができました。

今後も予備自衛官として成長できるように資質向上・体力向上に努めます。最後に、本訓練を担当された関係者の皆様に感謝するとともに訓練に参加する機会を与えて頂いた地本の方々、本当にありがとうございます。





自衛隊
沖縄地方協力本部
予備二等陸曹
氏名 美香

現在、私は那覇駐屯地で防生協職員として働いています。会社は自衛隊出身者が多く、訓練に快く送り出していただいております。また、自衛隊家族会を初め様々な協力会に所属させて頂いており、家族は皆、自衛官です。そんな環境にいる私なので日頃から自衛隊の役に立つべく、隊員募集や窓口に来た隊員の悩み相談等微力ながら活動しております。

さて、予備自衛官に採用されて以来約三十年、この度初めて中央訓練に参加させて頂きました。三十九年ぶりの朝霞駐屯地にてドキドキする中、いつも以上に気を、己を引き締めました。初日…健康診断、着隊式、担任部隊による有意義な精神教育。予備自衛官として自分のやるべきことを再確認しました。

二日目…大迫力の車両、戦車走行、航空機飛行展示、感動の富士総合火力演習。

三日目…初めてパトラーを装着した警備訓練。体力に自信があっても不慣れなことが多く大変でした。CH-47での訓練地移動担任部隊は偶然にも息子の部隊でした。訓練では空包を使用しましたが、激動する世界の情勢を想い、改めて自分の取るべき行動、立場を意識しました。

四日目…入隊試験以来となる市ヶ谷駐屯地研修。初めての制服着用。陸上幕僚長訓示では予備自衛官に対する感謝と激励を頂き、感動・感激するとともに、常備の自衛官に対する尊敬と感謝の念がより一層強まりました。その後の懇談会ではこの中央訓練に参加した一期一会の仲間との交流を深めました。とても感慨深い一日となりました。

五日目…物品返納、離隊式。充実した訓練でした。予備自衛官人生も終わりに近づいていますが体力練成怠らず、

関わった皆様とのご縁を大切に全うできたらと考えています。この度中央訓練で一緒に頑張った皆様、またどこかでお会いしましょう。ありがとうございます。

施策の広場

優秀隊員招待行事

「令和五年度優秀隊員招待行事」が十一月十五日（水）、東京都港区の明治記念館で行われました。

この行事は、陸上幕僚長がそれぞれの職務において、優秀な成績を収めた准・曹・事務官等、即応予備自衛官及び予備自衛官を顕彰するものです。

令和五年度優秀隊員（予備自衛官等）

- 札幌地方協力本部 予備一等陸曹 松浦 正弘
- 東北方面後方支援隊 即応予備陸曹長 永野 康弘
- 第四十八普通科連隊 即応予備一等陸曹 榮田 聡
- 山口地方協力本部 予備陸曹長 武居 功
- 長崎地方協力本部 予備陸曹長 土井 政義

受賞おめでとうございます。

「顕彰状をいただき感謝」



自衛隊札幌地方協力本部
予備一等陸曹
松浦 正弘

はじめに、今回陸上自衛隊優秀隊員に予備自衛官として選考が決定されたと知らせが届き、突然のことです。正直あまり実感がわかず妻に伝えたと、民間と自衛隊の架け橋という責を負う予備自衛官として、"荣誉なこと"と、思いのほか喜んでくれて、とてもうれしかったです。

私は昭和五十七年に高校を卒業後、真駒内駐屯地で新隊員教育を受けた後、同駐屯地第十一施設大隊に配属、通算四年四か月間勤務し退官しました。その後、三十七年間予備自衛官として訓練に出頭し、現在に至っているところです。毎年五日間訓練に送り出される妻と、招集訓練に快く参加させてくれる勤務先の職員とその配慮には、感謝の言葉しかありません。招集訓練に参加できるのもあと残り数回かなと思っていたところ、このような荣誉ある行事に妻とともに招待していただくこととなり驚いております。

表彰式では陸上幕僚長より顕彰状を直接授与していただき、大変感激するとともに、予備自衛官として国防への決意を改めて、夫婦ともども再確認でき、とても感謝いたします。最後になりましたが、この招待行事参加をサポートしてくださった札幌地方協力本部をはじめ、各部隊及び行事に携わった全ての方々に對して心より御礼申し上げます。ありがとうございます。

令和五年度 優秀隊員記念行事に参加して



自衛隊山口地方協力本部
予備陸曹長
武居 功

この度、令和五年度優秀隊員に選ばれ大変嬉しく誠にありがとうございます。

予備自衛官二十八年、即応予備自衛官十二年、招集訓練に参加し、東日本大震災の時、招集命令に応じることができたのは、家族と職場の理解があったことと感謝しています。顕彰状授与式の会場は、豪華な明治記念館で行われ、慣れない新制服を着用させていた

だき身が締まる思いで参加させていただきました。

授与式では、最先任上級曹長よりメダルを森下幕僚長夫妻より顕彰状と盾をいただき、記念撮影をさせていただきました。

夕食会会場では隊員とメッセージの紹介もあり楽しいひと時もあつという間でした。

翌日は、市ヶ谷駐屯地研修と自衛隊音楽まつり鑑賞、二日間貴重な思い出を作らせていただきました。

最後に、行事進行等の関係者の皆様、本当にありがとうございました。

防衛大臣感謝状受賞企業

防衛大臣感謝状を受賞して



株式会社佐藤海事
代表取締役

佐藤 嘉樹

この度は、予備自衛官等雇用功勞による防衛大臣感謝状を賜り、大変光榮に存じます。これもひとえに自衛隊の皆様のご尽力、そ

して日頃から当社で頑張ってくれている即応予備自衛官の真面目に一生懸命仕事に取り組んでいる姿勢が、今回の受賞につながったと思っております。あらためて感謝申し上げます。

授賞式典の会場はとても厳かな場でとても緊張しました。その後の防衛省の皆さんとの懇親会では、一変して和やかな雰囲気でも、様々な方とお会いすることができ、感無量の思いで帰ってきました。

早速、翌日の会社の朝礼で、今回の授賞式の内容を社員に報告させていただきました。私共の会社は、秋田県内でクレーン工事の業務を行っております。現在、当社には即応予備自衛官二名、自衛隊出身者は五名在籍しております。

東日本大震災では、当時、即応予備自衛官三名が現地に行つて搜索活動をしてくださいました。その時の三名の使命感に燃える表情を今でも忘れられません。自衛隊で心身共に訓練している賜物だと感心したのを覚えています。自衛隊出身者は、毎日の仕事でもひとときわ優れているものがあります。挨拶ひとつからも感じ取れます。今後も自衛隊出身者を積極的に雇用したいと考えています。最後に、自衛隊の皆様方の益々のご発展とご活躍をお祈り申し上げます。

防衛大臣感謝状を受賞して



永井運輸株式会社
代表取締役会長

永井 豊

この度は予備自衛官雇用等による防衛大臣感謝状を賜り誠にありがとうございました。

弊社は群馬県にて、トラック・バス・タクシーを業として、日々の安全・安心に努めております。

貨物・旅客自動車運送事業の職務上、安全運転は当然のことながら、お客様への接客態備工場を敷地内に併設しており、日々トラック・バス・タクシーの点検を行い、安全運行に努めております。現在、予備自衛官二名、即応予備自衛官二名、自衛隊出身者が一〇名在籍しております。礼儀正しく無事故無違反で規則を遵守しており、お客様からも感謝のお言葉を頂いております。

今後も日々の業務と訓練や災害時等の活動ができる環境を整え、予備自衛官等の雇用を積極的に推進させて頂く所存でございます。最後に、自衛隊の皆様のご発展とご

安全を心よりお祈り申し上げます。

協力事業所制度新規認定事業所

大臣認定協力事業所の認定を受けて



ヤマカ運輸株式会社
代表取締役

菅藤 孝雄

この度は、予備自衛官等制度への協力について高い評価を頂き、防衛大臣認定協力事業所の認定を賜り誠に有難うございます。

弊社は、函館市を拠点に運送業を行っております。主に鮮魚を積荷とし、函館の市場からの運送を手掛けております。

平成二十八年には「地本長認定協力事業所」の認定を受けることができ、国を守ることにへの貢献や災害派遣活動等の社会貢献の一端を担っていると感じ、誇りに思っております。

現在二名の即応予備自衛官が在籍し、トラックドライバーとして活躍しています。自衛隊での経験を活かし、礼儀正しく、無事故無違反で規則を遵守しており、荷主様からも感

謝のお言葉を多く頂くなど、弊社に大きく貢献していただいております。

今後も、引き続き仕事と訓練を両立できる環境を整え、協力したいと考えております。最後に、自衛隊の皆様方の益々のご活躍とご健勝を心よりお祈り申し上げます。

予備自衛官の役割について



尾上敏章行政書士事務所
代表

尾上 敏章

この度、弊所は自衛隊福岡地方協力本部長より、予備自衛官等協力事業所として認定いただき、私自身も予備自衛官（予備空士長）として訓練に参加しています。

よく予備自衛官として自分に何ができるのかを自問自答することがあります。結論、明確な回答がない所存ではありますが、予備自衛官の方々の大多数は、学生、会社員、事業者であると思われ、また、それぞれの立場で置かれていた立場や状況、そして思想があり、多種多様な考え方が、人の数だけあると思

ます。しかし、そういう中で一点だけ、目指すところが共通であり、現職の方々や予備自衛官の方々が隔たりなく、気持ちや思いなどを一つにすることにより、昨今の目まぐるしく変わる状況の中、日本の自衛隊が求められていることに対して、国民は勿論のこと、諸外国からの期待に応えることができると思われます。

いくら時代が変わろうと、いつの時代も国を守る。国民全員が理不尽に血を流したり、涙を流したり、命や経済活動等を脅かされたいよう、幸せに天寿を全うできることを願って、私自身、自分一人では微力ですが、現職、予備自衛官の方々、人それぞれ適材適所はあるとは思いますが、万が一の場合には必ず、期待を大幅に超える成果を挙げられると思えます。なかなか日の目を浴びない、活躍することがない事が平和であり一番大切ですが、「いつの時代も国を守る」という考えを、退官された先輩方、現在ご活躍されている世代、そして次の世代へと継承していけば、我が国の安全、安心を担保できると信じて、日々、体力、技術、精神を磨いていこうと考えています。

最後に、予備自衛官は存在自体を知られていない、認知度がとても低いことに対して、とても残念に感じます。周りに話をする

「予備自衛官になってみたい」という頼もしい方々も多々います。これから、予備自衛官を目指す方、迷っている方、まずは思い切っ
て恐れずに飛び込んでみてください。予備自衛官として、真つ正面から向き合えば何か得ることが
できるのではないのでしょうか。思い通りにいかないことはたくさんあります。どんなに一生懸命にやってもうまくいかないことも
あります。しかし、失敗してもそこで終わりではありません。他の仲間達が助けてくれます。そして今度は助ける側となり、一つ一つの出会いを大切に
して、次世代へと繋いでいきます。

女性活躍

五役任務完遂



自衛隊帯広地方協力本部
予備准陸尉

日光 ゆみ

定年後も「誰かの役に立ちたい。」との思いで約三十年の常備自衛官勤務を終え、令和元

年に予備自衛官に志願して四年が経ちました。現在、自衛隊帯広地方協力本部で期間業務隊員として勤務している事もあり、招集訓練にはとても出頭しやすく、毎年欠かさず訓練に参加しています。

私は、妻・母・祖母・期間業務隊員、そして予備自衛官の五足のわらじを履き忙しい毎日
を過ごしていますが、家族や職場の皆様の理解や協力のおかげで五役をこなす事ができて
います。

招集訓練では、常備自衛官の親切な対応と適切なサポートで安心して訓練することができ、感謝の気持ちでいっぱいです。かつての仲間と再会し、お互いの近況報告や情報交換
ができるのも楽しみのひとつです。

今後は国防の一端を担う予備自衛官として有事の際に対応できるよう、健康管理を怠ら
ず、体力錬成（維持）に努め「誰かの役に立つ」ため残りの予備自衛官訓練に出頭し、「五役任務完遂」できるよう頑張りたいと思いま
す。



夢をあきらめずチャレンジ！ 自衛隊で培ったスキルを活かして起業！



自衛隊岩手地方協力本部
予備三等陸曹

中村 茜

私は、物心ついた頃から指導者になることに憧れていました。自衛隊に入隊してからは、その夢を叶えるため、昇任を目指して勉強し、陸曹試験に合格。アナウンサー教育や岩手地本での臨時勤務を経験し、成功体験を積み重ねたことで自信ができました。

もっと自信をつけたいと体調管理を兼ねて始めたのが、整体師の資格取得でした。

自衛官として仕事を続けながら、子育てをし、全体の資格を取得。「もっと実力を試したい」と好奇心が膨らみ、勤続10年目に自衛隊を退職、開業する決意をしました。

開業準備中、社会で活躍する女性を発掘する「Beauty Japan」という大会からスカウトを受け、二〇二二年東北大会に出場することになり、準グランプリを受賞。「これを機に女性自衛官のことをさらに知って欲しい」と情報発信を始めました。

その後、頭痛に特化した整体技術を追求め、遂に整体サロンをオープンすることができました。

そして、自衛官として培ったスキルを活かし、夢だった「指導者」としての活動を始めました。「美彫骨整体」という技術の認定講師として、経営やマインドを含め、これまで六人の生徒を指導しています。

まだまだ夢の途中ですが、今は、個人の成長を応援すること、技術で人の役に立てること
にやりがいを感じています。

今後、活躍する女性自衛官のためにも、経営者として、また、予備自衛官として、夢をあきらめずチャレンジしていきたいと思いま
す。

国防に全力を尽くす



自衛隊千葉地方協力本部
予備三等陸曹

金田 あやの

私は、令和四年五月から令和五年十一月の間計三十八日間、第三十一普通科連隊第三中隊において、一般公募予備自衛官から志願し

て、即応予備自衛官になる為の特技付与教育訓練（基本軽火器）に第四期生として参加し、十八名の仲間と共に終了する事が出来た。令和四年度に第三十一普通科連隊に一般公募予備自衛官の女性を始め受け入れてもらう事が出来き、待ちに待ったナンバー中隊での念願の教育訓練で非常に嬉しく、その教育訓練も無事に終了できたので、幸甚の極みである。

平成二十四年四月に予備自衛官補（一般）に任官し、同年十二月に五十日間の教育訓練を終了し予備自衛官に任官して四任期十二年となるが令和元年度には予備自衛官中央訓練に参加した。

猛暑の中三日間の休みなく続いた弾倉交換や市街地戦闘訓練の演練に挑み、任務を完遂できたことは自信に繋がった。

更に同年中に台風第十九号による災害派遣の招集を受け、陸上総隊司令部参事官室勤務を命じられ、二十日間の勤務をした。参事官、自衛官、事務官と勤務し、災害派遣の運営の仕方を目の当たりに出来た。また、千葉県及び長野県の災害派遣現場での活動状況を皆で一緒に視察し、予備自衛官として大変売りのある訓練と貴重な経験を得る事が出来た。

ところで、特技付与教育訓練を受ける際に、自分で着眼としていたことがある。それは常



に一つ先のことを考えて行動する事である。訓練を重ねていくうちに、小部隊の指揮官として行動しなければならぬ状況も増えていった。その度に緊張して頭が真っ白になるのではこの先何の進歩もないと思ひ、常に一つ先の事を考え行動すれば、視野が広がり全体が見渡せ心に余裕ができ、落ち着いて指示が出せることに気が付いた。それからは、指示を受けている時も一つ先を考える癖がつき、課業外のことも限られた時間の中で計画的に行動できるようになってきた。

私は普段陸運業で働いており、ベルトコンベアーで運ばれてくる荷物をエリアごとに仕分けし発送する現場にいる。時に怒涛のように押し寄せる荷物の量に気合を入れ、一息もつく事なく仕分けを続ける持久力で、戦力としてチームに貢献している。

入社した時は百貨店でお客様の出された荷物の荷受け、発送、問い合わせ、事務等の業務をしていた。その後、教育訓練に参加して訓練日数が年五日から二十日に増加し、同僚に業務の負担をかける様になった。今まで以上に自分の担当に責任を持ち、ワンチームとして密に意思疎通を図り、目に見える形で成果を出すことで訓練出頭に職場の理解を得られるよう努力しなければならぬと痛感した。即自として一步ステップアップするには、

訓練準備等当たり前の事を当たり前に出来る様にならないといけない。どんな事も意識し、自覚し、習慣にし、一つ一つ身に付けられる様強い使命感を持って臨んでいきたい。



「特別なことはしなくていい」

自衛隊京都地方協力本部
予備三等陸尉

坂口 茉央里



この度、僭越ながらこのような文章を投稿する機会をいただき、誠にありがとうございます

りませんでした。そのときの思いだけで予備自衛官の世界に飛び込みました。

美容業界での経験は、戦闘・災害を問わず、被災者や戦闘員の方などのケアにも活かしていきたいと考えております。どんな経験も必ず誰かの役に立つと考え、これからのいろいろなことを学んでいきたいと思ひます。

実際の訓練には、さまざまな職業・年齢の方が参加されており、わからないことや出来ないことは、みんなで教えあったり、情報共有したり、教官の方も立ち止まって丁寧に教えてくださいます。また課業外の時間では仲間と楽しい時間を過ごすこともできます。

予備自衛官招集訓練には、国民の税金、現職の自衛官の方の時間や人員をかけて準備をしていただいています。いざというときに自衛隊の活動をサポートできるように、日頃から研鑽を怠らないよう心掛けていきたいと思ひます。

最後までお読みいただきありがとうございます。

自衛隊への熱い思い



西部方面後方支援隊
第一〇五補給大隊第一中隊
即応予備二等陸曹

山田 優子

私は出産を機に自衛隊を退職して、予備自衛官に志願し、年間五日間の招集訓練に参加してました。しかし自衛官時代にやり残したことが多くのように感じていた私は、調理師免許やフォークリフト免許等を取得しましたが、もっと色々なことに挑戦したいという気持ちが募りました。もう一度自衛官になろう!と思ひ、再入隊を希望しましたが、当時の年齢制限の壁に泣く泣く断念……。その時に即応予備自衛官にならないかと勧めていただき、それから約二十年間即応予備自衛官を続けています。

即応予備自衛官になってからは、職種も変わり不安でしたが、常備自衛官の方々から一つ一つ丁寧に教えていただきながら、訓練に励んでいます。

令和二年七月豪雨の際には、被災者のために役に立ちたいと思ひ災害派遣に応じ、現地へ行き貴重な体験をさせていただきました。

す。なんの取柄もない私の体験談を記事にさせていただくことはとても恐縮なことだと思ひましたが、こんな私でも社会貢献の歯車のひとつとして活動しているということをお伝えできればよいと思ひます。

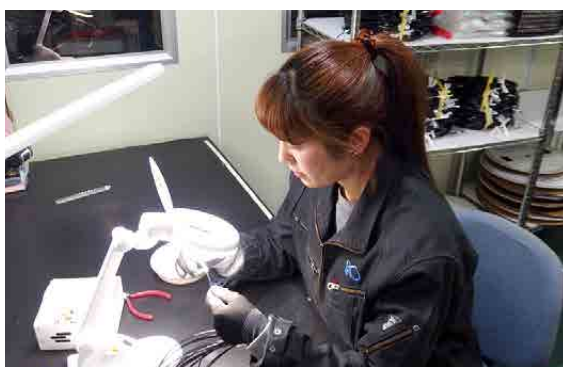
私は看護師兼エステイションで美容業界を中心に活動をしてきました。もともとは仕事にやりがいを感じるわけでもなく、ただなんとなく毎日を過ごしていました。ある日、先輩から「あなたは、もっと世の中のことに興味を持った方がよい。」と言われ、とりあえずニュース記事を読み始めました。

日本列島を脅かす他国からのミサイル攻撃、未だ解決しない拉致被害者の問題など、ずっと苦しめられている人びとの存在にとても心が痛みました。一方で現在の日本で概ね平和な暮らしができてきているのは、先人たちのためまぬ努力によるものだと思ひ、なにもかも自信はあった。

私は、これまで自分や家族の大切さに関心をもつこともなく過ごしてきましたが、ずっと誰かに守られていたということを知り、自分も何か行動したいと思うようになりました。私の家は元軍人、自衛官の存在も少なからずあり、真っ先に思ひ浮かんだのが自衛隊でした。私は運動ができるわけでもなく、普通の人より体力はないし、なにもかも自信はあ

また、米軍基地での共同訓練にも参加し、糧食の交付等を実施し、練度向上にも繋げることができました。これも第一〇五補給大隊の方々の配慮があったからだと思ひ感謝しています。併せて家族や会社の方々の理解と協力もあり、訓練に参加しやすい環境でとても感謝しています。

即応予備自衛官になって多くの出会いがありました。先日、大切な仲間の一人が病気で亡くなりました。その人の分まで部隊の即戦力になり活躍できるよう努力し、仕事と両立しながら定年まで全うしたいと思ひます。



招集(教育)訓練の広場

予備自衛官招集訓練

予備自衛官招集訓練を担当して



自衛隊山形地方協力本部
防衛事務官

三上 尚人

自衛隊山形地方協力本部では、毎年度四回、予備自衛官招集訓練(一日間訓練)を担当・実施しています。

一日間訓練は自衛隊退職後一年未満で採用された方を対象とした訓練です。名前のおりの一日間の期間ではありますが、訓練開始式での担任官に対する申告及び服務の宣誓に始まり、担当者からの制度説明、参加した方々の予備自衛官としての自覚を高めるとともに、勤務する上で必要な知識を得て頂く重要な機会と捉えています。

当地本では、この訓練の場を活用し、災害

発生時等における予備自衛官の安否確認や出頭調整が容易となった応招確認システムの普及を図っています。今年度第二回目の訓練からは、本部長自ら応招確認システムの登録を促す内容を訓示するとともに、実際の応招確認システムの配信状況等の説明を取り入れました。そのことにより、従来ではあまり上がらなかった登録率が格段に向上したことから、引き続き、出頭者全員が登録して頂けるよう精進いたします。

また、訓練の際に、山形県隊友会から隊友会の概要や活動状況、予備自衛官に対する支援等について説明して頂いております。このような場を設定することで隊友会の会勢拡大の一助にもなっていると考えております。

自衛隊山形地方協力本部では、今後とも、応招確認システムの普及を含め予備自衛官の皆様が訓練等へ出頭しやすい環境に留意した招集訓練を実施してまいります。



本部長訓示



応招確認システム

元予備自衛官が 予備自衛官招集訓練を担当して



第十五即応機動連隊
二等陸曹

都築 侑吾

今回、予備自衛官招集訓練を担当するにあたり思ったことは、「予備自出身者が、予備自教育を担当するとは」。でした。

私は、平成二十四年に予備自衛官補として採用され、大津駐屯地で教育を実施、予備自衛官任官後、伊丹、姫路、千僧で各五日間の招集訓練に参加しました。

本部管理中隊が教育を担当したのは、約五年前であり、当時の関係者や訓練経験者は殆ど在籍しておらず、ほぼ無からのスタートとなりました。

資料も経験もないまま、唯一の武器となったのは、予備自衛官として訓練に参加した期間の記憶と経験です。

規則や根拠を調べ、地方協力本部の担当方と何度も連絡をとり、やっとのことで計画を形にすることができました。

他にも、他部隊で教育を担当していた幹部の方の助言、訓練担当陸曹、支援陸士の方々

即応予備自衛官招集訓練

「大家族の一員」



第三十一普通科連隊
一等陸曹

相川 孝介

私が、コア部隊で勤務してまず思うのは、即応予備自衛官の訓練に臨む気持ちの前向きさです。

即応予備自衛官の方の中には、元陸自だけでなく空自及び海自の方ももちろんのこと多職種もいるとともに、現役時代の勤務の長短も様々です。担当者は、訓練を計画する上で、毎回同じ即応予備自衛官が訓練に参加するわけではないので、訓練内容だけでなく、個人の練度を考慮して、編成や役職を立案します。

当日、訓練に参加する即応予備自衛官は、自分の編成及び役職を確認し、それに必要な知識を過去の訓練内容を記録した訓練手簿から復習するとともに、今回の訓練を予習して訓練に臨んでいます。先輩の即応予備自衛官は、新規の採用者に丁寧に説明しながら、自らも訓練に励んでいます。



年間三三五日は、一般の企業で勤務しているながら、中にはわざわざ休日を利用して招集訓練に参加する即応予備自衛官も少なくありません。

私は、そのような即応予備自衛官とのコミュニケーションを訓練だけでなく普段の会話も大切にすることで、良好な関係を構築でき、より良い訓練を実施できると思っています。まさに常備自衛官と即応予備自衛官との垣根のない「大家族」をイメージしています。

これからも即応予備自衛官、そして常備自衛官とのコミュニケーションを大切に勤務します、朝の「おはようございます」を第一歩に。



のご助力で大きな事故等もなく教育を完遂することができました。

準備間や教育期間中は眠れないほどの不安で押し殺されそうになりました。しかし、予備自衛官の方、在籍部隊の方からの励ましやお褒めの言葉で前向きに、諦めずやり抜くことができました。

「本管中隊は凄く良かった。また、この部隊で教育してもらいたい。参加したい」。

お褒めの言葉が多くあり、救われました。自分が予備自衛官としての知識、経験がこのような形で、場所でも活躍するとは決して考えもしませんでした。

現職自衛官と予備自衛官の両目線から、教育を担当し、活躍できたことは光栄に思い、より多くの経験をさせていただきました。

予備自衛官招集訓練を担当して



第四十三普通科連隊重迫中隊
陸曹長
上野 憲一郎

私は、令和五年三月から中隊先任上級曹長として勤務しています。上番当初は、予備自衛官制度をあまり知らず、年一回中隊が担当する予備自衛官招集訓練の内容程度の知識しかなく、即応予備自衛官や予備自衛官が何をやっているのか分からない状態でした。その様な状況の中で、中隊長や連隊の援護担当者から教育を受け、徐々に知識を深めることができ、予備自衛官の重要性を理解するようになりました。

部隊には私のように、予備自衛官制度の概要は聞いたことはあるが細部までは理解できずにいる隊員が多数いると思います。だからこそ制度が分からないまま退職を迎える隊員には予備自衛官になる選択肢が思いつかないように思えます。以前までの中隊を振り返ると予備自衛官等の志願者はほほいさない状態でしたが、近年志願者が増え続けている理由を中隊長に聞いてみました。そこで中隊長より

言われたことは「志願率を上げるためではなく、今まで一緒に働いてきた仲間との絆を絶やさず、退職後も国を守る仲間として繋がりを持つことを主眼に話せばおのずと志願者は増えるし、細い説明はいらぬ。」と言われました。私はこの話を聞き、処遇等の魅力を説明することも大事かもしれないが、根本に「自衛隊」や「中隊」との繋がりについて話す方が隊員へも伝わりやすく、説明する側も本音が話せると感じました。その結果、昨年度退職者から予備自衛官に五名、即応予備自衛官に二名が志願してくれました。

今年度の退職予定者も、小隊長や営内外班長の親身を説明により、予備自衛官又は即応予備自衛官に志願することを約束してくれました。これは本人の国防に対する意識と仲間との繋がりの深さだと私は思います。

私も数年後退職を迎えますが、その時は予備自衛官に志願し、国民のため、そして仲間のために繋がりを大切にして活躍したいと思っています。

予備自衛官補招集教育訓練



北部方面混成団
第一二〇教育大隊
三等陸曹
棟方 桜

私は、令和三年八月第一二〇教育大隊所属以来、予備自衛官補の班長として招集教育訓練に携わっています。

北部方面隊唯一の教育担任部隊として、予備自衛官補に対し予備自衛官になることを前提とした教育を実施し、予備自衛官補(技能)においては、各職種共通の識能及び専門技能に係る職務の基礎的事項の概要を修得させることが任務です。

予備自衛官補(一般)では五十日間をかけて修得させる事に対し予備自衛官補(技能)では十日間で修得させる必要がありますが、短期集中した訓練に苦勞していますが、学業又は就業との両立を自ら選ぶ志願された方々が教育訓練に積極的に取り組む姿勢や意欲にはとても感心させられます。また、興味深く教育訓練に参加して頂き、私達常備自衛官では気付



後列左から2番目が棟方3曹

かない部分に気付きを与えてくれる存在です。短い期間で「上達するぞ」という気合いが伝わり、私も「負けないぞ」という心意気で教育指導に当たり、自分自身も成長することが出来ていると思います。今後についても、より良い教育訓練が実施出来るよう精進して行きます。

予備自衛官補招集教育訓練



中部方面混成団
第一一〇教育大隊
三等陸曹
藤本 浩矢

私は令和四年三月より第一一〇教育大隊第一三三共通教育中隊で助教として勤務しております。

主は新隊員の班長として勤務し、今回初めて予備自衛官補の課目を担当しました。予備自衛官補は様々な理由・目標で訓練に参加しており、本教育は彼ら自身の将来に大きく影響を与える非常に重要な訓練と考えております。

また、この教育が彼らの自衛官を目指すきっかけや自衛隊の魅力を一般の方に伝えることに繋がるとも考えております。

本招集教育訓練では、国を守るために必要な知識や武器の取扱い等を教育するとともに任務を達成するため同僚と協力することの大切さについても教えています。彼らが訓練を通じてやりがいを感じ成長していく過程に接し、私自身多くのことを学びました。

予備自衛官補(技能)と私

また、国防への意識、職務に対する責任感や意欲を高める機会になりました。

彼らの更なる成長と活躍を楽しみにしています。



各部隊等の訓練・施策等紹介

技能公募予備自補(法務)の職務訓練

北部方面総監部法務官

北部方面総監部法務官は、令和五年九月十五日及び十六日に技能公募予備自補(法務)の職務訓練を実施した。

本訓練においては、防衛法制や国際人道法の基本的な知識付与に係る教育を実施した。本訓練の被教育者は、法律のプロである弁護士であり、普段馴染みのない防衛法制等であっても法令の理解の速度は一般隊員の比ではなかった。そのような隊員に対する教育にあり、自衛隊の具体的な行動と関連づけて教育し法令の適用要領についてイメージアップ

させることに着意した。また、努めて一方的な教育にならないよう教育の途中に討議を交えることにも着意したところ、法律のプロである被教育者からの発言は非常に参考となるものもあり、教育する側としても更に知識が深まる機会となった。

本訓練に参加した技能公募予備自補(法務)の所見において、非常に有意義な訓練であったとの感想のほか、更なる教育の質の向上のために建設的な意見もいただいた。

職務訓練の期間は、年度において二日間が基準であり、法務官としては、その限られた時間の中で技能公募予備自(法務)の法務幕僚としての練度向上を図る必要がある。本訓練の成果を踏まえ、今後より一層効果的な訓練の計画・実施に邁進する。



今年度初の 予備自五日間招集訓練

自衛隊宮城地方協力本部

宮城地本(本部長 諏訪一陸佐)は、五月二十五日から二十九日までの間、船岡駐屯地において、第三〇一水際障害中隊(中隊長 磯部一陸尉)が担任した予備自衛官五日間招集訓練を支援した。今年度県内初となり、五日間で六十六名の予備自衛官が参加した。

初日は、地本による予備自等制度教育及び即自有資格者への志願勧誘が行われた。

また、今回から現職と予備自衛官との懇談が行われ、互いの理解を深める良い機会となった。

訓練最終日には総監顕彰状の伝達式が実施され、本部長から最終任期満了を迎えた7名に伝達を行い、その栄誉を称えた。

表彰式に際して地本長から、昨今の日本を巡る安全保障環境の厳しい状況や、国内においても地震が多くなってきたことを踏まえ、「我々現職や予備自衛官には、国民の期待がどんどん高くなってきている中、いつでも任務に臨むことが出来るように、物心共に備えを確かにもらいたい」と訓示した。宮城地本では、本訓練を皮切りに、今年度

は十三回の五日間訓練を予定しており、「予備自本人及び訓練部隊と連携を図り、訓練出頭率の確保を目指す」としている。



即自有資格者の勧誘



小銃射撃予習



職務訓練(施設)



現職自衛官との懇談



救急法訓練



受賞者との記念撮影

任期制退職予定隊員等による 即応予備自衛官雇用企業研修

自衛隊宮城地方協力本部

宮城地本(本部長 澤村一陸佐)は、九月七日任期制の退職予定隊員等による即応予備自衛官雇用企業研修を実施し、来年三月に任期満了を迎え就職を予定している研修者十二名、中隊長や先任上級曹長等の同行者七名、計十九名が参加した。

本研修の目的は、二年以内に退職予定の任期制隊員等に対し、即自雇用企業を研修させ、企業就職と即応予備自衛官との両立への不安感を排除し、志願促進を図るものである。

研修では、即自雇用企業4社の協力を得て、企業の業務内容、訓練招集への対応、即自に対する処遇等について、丁寧にご説明頂くとともに、各企業で勤務している即自隊員から近況を話して頂く等、非常に貴重なものとなった。

参加した隊員は、企業担当者から説明を受けるとともに、即自隊員の体験談に熱心に耳を傾ける等、就職と即自の両立について理解を深めていた。

今後、即自雇用企業と連携を図り、即自制度に対する更なるご理解を頂くとともに、

即自志願意識の高揚、訓練出頭環境の維持等に努めていく。



雇用企業説明
(株)サトー商会



即自隊員との懇談
(東洋ワークセキュリティ(株))



工場研修
(株)奥羽木工所



倉庫研修
(株)サトー商会



即自隊員との懇談
(株)アート引越センター



即自隊員との懇談
(株)アート引越センター

企業主等の 即応予備自衛官招集訓練研修

自衛隊宮城地方協力本部

宮城地本(本部長 澤村一陸佐)は十一月三日、多賀城駐屯地及び利府射場において、企業主等の即応予備自衛官招集訓練研修を行った。

本研修は、第三十八普通科連隊(連隊長 廣田一陸佐)の訓練に参加している即応予備自衛官を雇用している企業の皆様に、普段の職場とは異なる自衛官としての姿を見て頂くことで、制度に対する理解を深めてもらうものであり、宮城県内の六社七名に、山形地本(本部長 小野事務官)からの二社七名を加え合計八社十四名の方に参加頂いた。

午前は、多賀城駐屯地での概要説明に始まり、利府射場に移動し即応予備自衛官の小火器射撃検定を研修した後、多賀城駐屯地に戻り即自隊員とともに会食・懇談をした。午後からは、一二〇ミリ迫撃砲陣地進入訓練等の訓練研修に続き、八二式指揮通信車や軽装甲機動車の装備品展示や軽装甲機動車の体験搭乗を実施し、最後に防衛館の見学をして頂き終了した。

即応予備自衛官が真剣に訓練に取り組む姿

を目的の当たりとした企業主等は、「改めて自衛隊の存在と即自隊員の重要性を認識した」と語り、即自制度に理解を示していた。

宮城地本では「今後も部隊と連携を図り、雇用企業主等への研修等を通じて即自予備自制度の更なる理解促進に努める」としている。



小火器射撃検定研修



警備訓練展示



即自隊員と記念撮影



会食・懇談



120mm迫撃砲陣地進入訓練



防衛館研修

技術と専門知識を発揮し 支援任務の完遂へ

東部方面後方支援隊 第一〇三補給大隊

第一〇三補給大隊は、令和五年十月三日から十月二十一日までの間、霞ヶ浦駐屯地及び東富士演習場において、令和五年度第一〇三補給大隊訓練検閲を受閲した。

第一〇三補給大隊長 岡二佐は隊員に対し「日々努力」「融和団結」を要望し、常備自衛官及び即自予備自衛官が連携し、常即一体となり各種補給等支援業務にまい進した。

即自予備自衛官は、全隊員が任務完遂への強い信念をもち、野外入浴所、野外洗濯所、燃料給油所、部品交付所の開設・運営を実施し広範、複雑多岐にわたる支援任務を達成するため、これまでの訓練出頭で高めた技術と専門知識を大いに発揮し、支援任務の完遂に大きく貢献した。

入浴施設を利用した隊員からは、「疲労が回復した」など感謝の声が多数あがっており、隊員の戦力回復に大きく貢献した。

第一〇三補給大隊は、これまで数次にわたる各種災害派遣で任務を完遂しており、これからも引き続き複雑多岐にわたる支援任務を

達成するため、大隊長を核心として、全隊員常に技術の錬磨に努め、ニーズに即した支援を実施していく。



予備自衛官職務訓練を担当して



自衛隊岡山地方協力本部
防衛事務官

中島 圭佑

自衛隊岡山地方協力本部は、令和四年度に地方協力本部として初めて職務訓練を実施し、令和五年度は、それをバージョンアップさせました。

職務訓練は、自衛隊岡山地方協力本部が管理する予備自衛官のうち、地方協力本部の業務に職務が指定されている隊員に対して実施するものです。予備自衛官五日間訓練のうち、一日間を職務訓練に充てるよう、訓練担当部隊と調整しました。本部においては、自衛隊岡山地方協力本部の概要及び総務・募集・援護各課の概要と業務内容について教育し、各課事務室及び庁舎施設の研修を併せて行いました。また、地域事務所等では、所が担当する地域の概要及び募集現況を説明しました。さらに、令和五年度は、市街地広報として、募集広報の実地訓練を行いました。

職務訓練計画を作成するに当たり、私は予備自衛官業務が初めての経験であるため、職

務訓練がどのような訓練なのか、具体的なイメージが湧かず苦労しました。そのような中でも、予備自衛官の練度を向上させるにはどのような訓練が効果的となるかなど、いろいろ考えて、より実効性の高い訓練を追求し、実施しました。

職務訓練を終えて、参加した予備自衛官の所感文には、「市街地広報の苦労について身をもって体験し、実のある訓練ができた。」



本部での教育風景

との声があり、昨年度からの更なる進化として新たに取り入れた実地訓練により、隊員のスキルアップにつながる訓練になったと実感しています。

今後も、予備自衛官の職務の練度を更に向き上げ、新たなアイデアがあればそれを取り入れ、職務訓練を継続していきたいと思えます。



実地訓練（市街地広報）

予備自衛官の仲間から

予備自衛官として勤務して



自衛隊札幌地方協力本部
予備一等陸佐

日高 信行

私は、平成二十九年九月に自衛官を定年退職し、平成三十年四月に一佐予備自衛官になりました。

一佐予備自衛官を志願した理由は、お世話になった方面総監部が事案に対応する場合、交代のいない課長クラスの手助けができないかなと考えたからです。

予備自衛官に任命されたとき、防衛調整官補佐の職務を指定されました。

職務を指定していただいたので、再就職先の職場にも予備自衛官として招集されたときの業務の説明も容易になりました。また、一

佐予備自衛官は招集訓練の特性上、五日間訓練ではなく、特別の訓練のみ参加することになります。その訓練に対する説明も容易になり、職場の理解を得ることができました。そのおかげで、予備自衛官になった年の十二月に行われた日米共同指揮所訓練の本訓練に参加することができました。そして配置先の理解もあり、一定の期間、責任のある業務をさせてもらい有意義な経験をすることができました。

職務を指定されることにより自分が招集された際にすることが明確になり、自分が維持する識能がはっきりし、招集された際の勤務場所との関係を維持することの重要性も認識できました。そのおかげで、自分が参加すべき訓練が明確になり、日米共同指揮所訓練や統合防災訓練に、より前向きに訓練に臨むことができたと思っています。



私は、令和六年三月で予備自衛官を退官します。今後は、地域の自衛官OBとして、間接的に自衛隊を応援していきたいと思っています。予備自衛官として勤務するにあたり、また、

来てくれることとなりました。このブルーインパルスの展示飛行は岩手県内初、そして全国初の地方空港上空での展示飛行となるものでした。

ブルーインパルスが、多くの人々に夢と感動を与える雄姿を目の当たりにして、私は、自衛官という仕事に憧れを抱くようになりました。ところが時すでに遅し、四十歳半ばでは自衛官になれるはずもなく、諦めるしかありませんでした。

ところが、調べていくうち、予備自衛官制度を活用すれば、私でも自衛官になり、災害派遣等で故郷のために奉仕できる事を知りました。

私は、五十一歳で国家資格を取り、ついに技能公募で予備自衛官補となりました。予備自衛官補の招集訓練に参加して一番感銘を受けたのは、訓練内容に個人差があっても、チーム一丸となってあらゆる困難を乗り越えようという、担当教官の訓練に対する姿勢でした。この姿勢は、民間企業でも学ぶべきだと感じました。

その後、令和五年二月に晴れて予備自衛官となり、初めて参加した予備自衛官招集訓練で、あらためて自然災害が頻発する昨今において、消防力だけで市民の生命と財産を守る事は極めて困難だと痛感しました。災害等か

予備自衛官としても二人三脚で 予備自衛官招集訓練(一日間) インタビュー



ら国と国民を守るため、家族を守るため、予備自衛官制度を一人でも多くの皆さんに知っていただきたいと思っています。私は、予備自衛官の一員となり、国民の一人として、微力でも国のため、故郷岩手のために奉仕できる事を誇りに思っています。

自衛隊岩手地方協力本部
予備二等陸曹

吉田 善胤

岩手地本(本部長 佐藤一佐)が実施した第一次予備自衛官招集訓練(一日間)に六月

招集訓練参加にあたり、サポートしてくれた、札幌地方協力本部、北部方面総監部、総監部付隊の皆様には感謝申し上げます。

「故郷を守る」という誇り 予備自補から予備自になって



自衛隊岩手地方協力本部
予備三等陸曹

高橋 修

私が自衛隊に関心を持つようになったのは、平成二十三年三月十一日に発生した東日本大震災で、懸命に災害派遣活動に従事する自衛官の姿を見た時からでした。

この未曾有の災害で、自衛隊の任務は、決して国防だけではない事を私は初めて知りました。

そして私は、震災からの復興に際し、「ブルーインパルスの展示飛行を花巻の空で実現させたい」という大きな夢を抱くようになりました。それはとてもハードルの高い夢でした。それでも岩手地本をはじめ、自衛隊OBの皆さんが、誘致実現のため最後まで支えて下さったおかげで、平成二十六年、いわて花巻空港スカイフェスタにブルーインパルスが

から予備自衛官となった小森悠摩予備三等陸曹と小森幸予備陸士長が参加した。お二人にお話を伺ったところ、自衛隊を退職後、ご夫婦で予備自衛官に志願したという。

そんな小森夫妻に自衛官になったきっかけやご夫婦で予備自衛官を志願した決意、夫婦円満の秘訣などを聞いてみた。

「まずは、お二人の出会いからお伺いします。」

「私たち夫婦の交際のきっかけは、夫の一目惚れです。」そう幸さんは笑って即答。「同じ部隊で、お互い自衛隊に入隊した理由も同じという事で、意気投合して、交際がスタートし、夫婦になりました。」

「自衛官になろうと思ったきっかけはなんですか?」

「東日本大震災で自衛官が災害派遣活動している献身的な姿に心を奪われ、入隊しました。」と、悠摩さんは当時を思いだすように語ってくれた。

小森夫妻は、自衛官として勤務していたが、幸さんの実家の会社を継ぐために退職した。それでも、入隊時の思いは変わらず、なにか人の役に立ちたいと予備自衛官を志願した。「私たち夫婦は、予備自衛官として、これからも自衛隊で培った経験や知識を活かし、自分達の力を社会に還元したいと思っています」

す。」と、悠摩さん。その言葉をうけ、幸さんから自衛隊を退職し、新しい道に進む隊員に向けて、「これから退職する隊員の皆様も第2の人生に不安があるかと思いますが、自分自身の成長や新たなキャリアを積み、充実した人生を送れるように思い切っていることに挑戦してみて下さい。」とメッセージをいただいた。

最後に、小森夫妻に夫婦円満の秘訣を聞いた。「思ったことは率直に話し合い、意見がぶつかることもあります。最後は子供が笑顔になる方を選びます。子供の笑顔が円満の秘訣ですね。」と、話す幸さんの笑顔が印象的だった。

育児と仕事を両立し、来年度からは、予備自衛官招集訓練（五日間）にご夫婦そろって二人三脚での訓練出頭されることを心待ちにしている。



予備自衛官招集訓練（1日間）に参加した小森夫妻



の手続きは必要となりませんが、公益性の高い活動であることから理解を得られています。当初私は、平成二十六年五月に予備自衛官補として愛知地本にて採用されました。当時は、

愛知県内の公立中学校（のちに小学校へ異動）にて事務職員として勤務しており、仕事と両立しながら大津駐屯地への五日間連続の出頭十回に耐えられるか不安も大きかったですが、意外にも職場の皆さんは大変好意的で自衛隊土産のお菓子を職場に持っていくと先生方に色々と興味をもって話を聞いていただいたり、労っていただけた記憶が大きいです。

予備自衛官補を始めた年に同時に始めたことがありますが、それは通信制大学での生涯学習の学びです。奇遇ですが、予備自衛官補が修了まで四年間かかり、その大学でも編入から卒業まで四年間かかり、その学費がちょうど予備自衛官補でいただいた報酬と同程度になっていたのを思い起こします。形としては、お国から頂いた手当で、大学を出させて貰ったというような格好になります。

私の生まれは岐阜で、進学も県内の地元の大学の教育学部へと進学しましたが、家庭の

予備自衛官に採用されて早十八年



自衛隊栃木地方協力本部
予備二等陸曹

松村 喜樹

自分は、平成十三年に当時茨城地方連絡部で陸上自衛官に志願して採用になり、勝田駐屯地に入隊して、武山駐屯地で前期教育、朝霞駐屯地で後期教育を受けました。

その後は、朝霞駐屯地の第一施設大隊に所属になりましたが、一年半所属して、一任期中に任期満了退職しました。

除隊後、二年間は民間の仕事だけをしていましたが、やはり自衛隊と自分は繋がっていたいと思い、予備自衛官に志願して採用され、十八年が経ち現在に至っています。

民間の仕事しながら、たまに自衛隊の仕事もできる。で、いざという時に、民間人では右も左も分からないところを自衛官及び予備自衛官として培った知識・技能を活かして、少しでも国防に協力し、国に対して貢献したいと思っています。

また、自分の妻は予備自衛官補で採用され、現在は自分と同じ予備自衛官をしており、予

事情があり、在学中に京都府警にて採用されたことから、中退して警察官として働き始めました。予備自衛官補に志願したのも、東日本大震災のこともありですが、警察官の頃を思い出して、再び何か制服に身を通して、厳正な規律のある組織・環境に身を置くことができたいと思い、当時中学校に来ていた広報官の方に連絡を取ったのがきっかけです。予備自衛官補として中部方面の多様な年代の学生・社会人の方と交流することで、普段職場では得難い様々な刺激を受け、生涯学習・資格取得、のちのキャリアへも良い影響を与えることとなりました。公私のシナジーの中に新たなものが得られたことで、その後の人生を大きく変える結果となりました。予備自衛官の経験が、その後の三十代での教員への再チャレンジ、母校での教育実習、教員採用試験を乗り越える勇氣になったと今となっては思います。

思い出として印象深いことは、予備自衛官課程修了時のお祝いで班長に京都で宴会を催していただいたことや、愛知地本の公募予備自衛官の親睦会（銀鯨会）に何度も参加させていただいたこと、神奈川地本へ移籍してから二年目の昨年に射撃検定で第一位となり、隊友会より表彰状を頂けたことです。射撃検定については教え子への自慢話としてもあり

備自衛官五日間招集訓練も同じ時期に夫婦で参加し、訓練を受けております。これからも、夫婦共々、健康等に十分に気を付けて、日本の国を少しでも守れる力になれるように、体が続く限り、最終任期まで予備自衛官を全うしたいと思っています。



予備自衛官補（一般）の経験を生かした新たなキャリアへの挑戦



自衛隊神奈川地方協力本部
予備陸士長

高橋 秀文

私はこれまで、官民様々な職種を複数経験してきましたが、現在は神奈川県内の公立高校で教員（理科・情報担当）として勤務し3年目となります。職場との両立という面では、公務員の兼職兼業の取り扱いとなるため一定

がたいものでした。今年には予備自衛官となつて五年目の年であり、地本長表彰も頂き、今後三十年継続し大臣表彰まで頂ける日を夢に見ながら、予備自衛官として活動する一教員として、国民との架け橋として、微力ではありますが今後もお役に立ち続けることができたいと考えております。

YS-85に参加して



自衛隊大阪地方協力本部
予備二等陸曹

橋本 武寛

「バランスがすべてなんだ」談笑のなかで、一人の米兵から言われたこの言葉にはっとさせられました。

私は十四日間、仙台駐屯地にて行われた日米豪共同指揮所演習（YS-85）に通訳者として参加しました。米軍人たちと毎日訓練し、夕食を共にし、学校訪問や海岸清掃などの行事に参加するなかで、彼らに対する見方が大きく変化してゆくのを感じていました。私は普段、ビジネス通訳・翻訳や、英語講師業をしています。したがって、日常的に欧米人と

頻繁に接します。そのため、私の中に、無意識にアメリカ人への固定観念が形成されていきました。例えば、アメリカ人は往々にして大雑把で、規律に甘く、する事が遅いという思い込みがありました。それが、今回の演習を通して大きな錯誤であったことに気づき、自分を恥じました。米兵たちは緻密でした。己を律していました。そして迅速でした。プロフェッショナルの矜持を持っていました。「彼らのこの力はどこから来ているのだろうか？」という問題意識を持って観察していると、彼らの不思議な「余裕」が見えてきました。彼らの思考、振る舞い、そして身体の使い方に至るまで、すべてに「余裕」が行き渡っており、だからこそ、刻々と変化する状況に柔軟に対応することができるのだと気づかされました。また、米兵たちの教養の深さにも驚く毎日でした。夕食の後の交流会では、歴史、哲学、文学の話の話を共にでき、充実した時間を過ごせました。

この度は光栄にも、米陸軍の公式動画に私のインタビューとアメリカ版戦闘糧食の食レポを載せてくださり、また米陸軍から私の通訳に対して勲章と表彰までいただくことができました。私が米兵を尊敬するのと同じように、彼らの口からは毎日のように、自衛隊の精強さや日本人の高い規律心と侍魂への敬意

即応予備自衛官の仲間から

即応予備自衛官と仕事の両立・感想



第一〇二弾薬大隊第二弾薬中隊
即応予備三等陸曹
橋本 剛

私は平成二十一年に任期制隊員として陸上自衛隊に入隊し普通科の偵察隊に六年間勤務し退職後、民間企業に就職しました。

退職の際に予備自衛官を進められ、予備自衛官として五年間勤務しましたが、三年前に新型コロナウイルスが流行し仕事も減り、仕事を続けられなくなったため転職しました。転職後の職場は予備自衛官制度に関心があり、当初協力企業ではなかったのですが協力企業になって下さり、社長も即応予備自衛官になることを快く受け入れて下さいました。

即応予備自衛官は年間三十日もの日数を訓練しなければいけません。再就職した職場もまったく経験のない仕事ということもあり正直なところ両立できるかすごく不安でした。しかし、職場の同僚も協力的で職場として応援して下さい気はすごく楽でした。

の言葉を聞きました。

全ての訓練が終了した後の交流会の席で、友人の米兵が深い眼差しで語った次の言葉が今も耳に残っています。"Life is too short not to smile." (人生は笑わないでは短すぎます) 私はこの言葉を生涯忘れないでしょう。ありがたい、米陸軍第七歩兵師団の仲間たち。あなたたちの優しさを私は忘れません。



迷彩服の決意



自衛隊広島地方協力本部
予備二等陸曹
片山 兼次郎

令和五年六月二十八日、予備自衛官招集訓練に初めて出頭しました。

建設業ということもあり、十月から翌年三月頃までに固めて訓練に出頭をしないとイケないのも正直なところ楽ではありませんが、出頭時に他職業の即自の方々や中隊の方々の交流が楽しくとても満足しています。

私が弾薬大隊を選んだ理由は選べる中で一番弾薬大隊が面白そうだと思ったからです。今現在それは間違ってたかと思えます。弾薬という特殊な特技についての勉強はとても難しいですが、爆破訓練など他では経験できない訓練もありすごく楽しく訓練できています。中隊もとても活気があり良い部隊だと思います。

最後になりますが即応予備自衛官を続けるために周りのサポートは非常に大切なことだと思います。職場や中隊の方々、今後ともよろしく願いいたします。



「ひとりでも多くの人を助けたい」そんな想いで迷彩服に身を包み訓練に臨みました。

今から五年前、西日本豪雨が発生、母と姉が土石流に巻き込まれ亡くなりました。

幼少期から身体の弱かった私に学校への送り迎えや身体を労わった食生活を心掛けてくれた母と、寂しくないようにいつも気にかけてくれた姉でした。

成人になり病気も克服し仕事等軌道に乗ってきた私は、「これからは私が支える番だ」と思っていたさなかの別れでした。

その後も報道等で、全国各地で災害が起き数多くの被災者に心痛める中、泥まみれで懸命に救助活動を行う自衛隊員が印象に残りました。

数年前知人が、予備自衛官になったことを思い出し、四十歳後半を迎え体面に不安はありましたが、誰かを助けたい想いは他の誰よりも負けない決意で令和三年、技能公募予備自衛官に志願、昨年教育訓練を終え予備自衛官に任官しました。

今後も、予備自衛官として訓練に出頭し練度を高め、災害招集がかかれば迷わず志願するつもりで邁進したいと思っています。

即応予備自衛官として



第三十八普通科連隊
重迫撃砲中隊
即応予備二等陸曹
阿部 哲郎

私は平成十一年に自衛隊に入隊し、第三〇五基地通信中隊で無線通信手として六年間勤務した後、五年間の予備自衛官を経て、即応予備自衛官に任用されました。

任用当初は、現職時の職種と全く違う訓練環境であり、果たして継続していくことができるか？とても不安だったことを今でも鮮明に覚えています。今年で十三年目を迎え、あの頃抱いていた不安や心配は、今となっては取り越し苦労だったと振り返ることができ、これもひとえに良き部隊と仲間巡りに巡り逢えたおかげであり、感謝しています。

今後は、私をここまで育ててくれた部隊へ恩返しする気持ちで、「こいつに任せておけば大丈夫」と思ってもらえるよう、心身共に鍛え、精進していきたいと思っています。

年間三十日間の訓練全てに参加することは厳しい部分がありますが、招集訓練に参加する価値は絶対にあると思います。

即応予備自衛官には仲間との出会いや、新たな自分を発見する機会があります。志半ばで自衛隊を退職した人、少しでも興味のある方は、即応予備自衛官への挑戦をお勧めします。



即応予備自衛官として

第三十一普通科連隊
重迫撃砲中隊
即応予備陸士長

田中 美樹

私は、普段プロボクサーとして、一力ボクシングジム（東京都墨田区）に所属しながら、試合に向けて練習しています。戦績は十一戦四勝（一KO）六敗一分です。即応予備自衛官として平成三十一年四月五日に採用されました。現役時代は、平成二十

八年三月二十八日に陸上自衛隊に入隊、航空科として立川駐屯で平成三十年三月三十日まで勤務しました。毎日ヘリの下に潜って色々な点検を実施しながらも、搭乗させてもらう機会も沢山ありました。私の大好きな映画『紅の豚』のシーンに似たところが多く、ワクワクしながら勤務をしたのが思い出に残っています。

即応予備自衛官に採用された後は、第三十一普通科連隊重迫撃砲中隊に配置され、射撃指揮班算定手として日々の訓練に励んでいます。

今も即応予備自衛官として訓練に参加し、自衛隊に携わることが出来ているのが誇りです。重迫撃砲については、全く知りませんでしたが、常備の方や先輩の即応予備自衛官から丁寧に指導していただけるので、とても助かっています。ありがとうございます。

また、連隊及び中隊の方々には、ボクサーとしても応援していただき試合へのモチベーション向上になり、とても感謝しています。

今後は、即応予備自衛官及びプロボクサーとして、一日一日を大切に、一生懸命訓練と練習に取り組んでいきます。そして、チャンピオンになってベルトをいつもお世話になっている方々に見せたいです。応援よろしくお願いいたします。

予備自衛官補の仲間から

大学生、ときどき自衛隊



自衛隊東京地方協力本部
予備自衛官補

青山 侑樹

私は中学生の頃から中国語の学習を続けており、高校生の頃から国防にも関心を持ちました。元々の役に立つことが好きだったので、自然と将来の進路に自衛隊を考えるようになりました。大学進学を機に、この予備自衛官補制度およびその採用の技能資格に中国語があることを知って、自分の得意分野を国防に活かせると思い、迷わず志願しました。

訓練にあたり、普段運動をしていない私は体力面に不安があったのですが、教育隊のみなさんや同じ予備自衛官の仲間と励まし合って笑顔で乗り切ることができました。また、技能は訓練日数が少ないため、自衛官として必要な内容を体得できるよう、集中して各訓練や教育を受けました。

訓練を終えると、五日間を共に過ごした仲間との一体感や達成感を得ることができました

た。これは自分にとって、普段の大学生活では得られない非常に貴重な経験となっていました。さらに、野外衛生や救急法など一般社会でも役に立つ知識を身につけることもでき、多くの学びを得られました。

この予備自衛官補制度によって、私のように大学生であっても国防の一翼を担い社会に貢献できる喜びと使命感を噛みしめながら、今後も訓練や技能向上に邁進していきたいと思っています。

予備自衛官補「二回目」にあたって

自衛隊滋賀地方協力本部
予備自衛官補

竹本 智志



私は大学四年間をイギリス・ロンドンにて過ごし、卒業後はすぐにフリーランスの書籍編集者として働きはじめました。保安・犯罪科学部という学部に所属していたこともあり、準軍事的な英語にはある程度のリテラシーを持っていましたが、諸般の事情により現在携わっているのは出版業。なんとかこれまでの経験やスキルを活かせないかと模索していた

ときに知ったのが、民間からの公募による予備自衛官補制度でした。ウクライナ紛争をきっかけに一気に安全保障上の脅威が現実味を帯びるなか、自分の個性を最大限活用しながら国防に参画する絶好の機会だと思い、志願を決めました。

実際に手続きを始めたのは、年度はじめの仕事が一段落した二〇二二年の五月ごろ。ところが、予備自衛官補の一次募集は四月に終了しており、この年は採用定員に達したため技能公募の第二次募集はありませんでした。

当初は一年待つから受験しようと考えていましたが、滋賀地方協力本部の担当官がスケジュールの相談に乗ってくださり、まずは二次募集がかけられた一般公募の枠で志願することにしました。というのも、技能公募の訓練は合計で十日間に限られています。いくら専門職とはいえ、短い訓練のみで独自の組織文化を持つ自衛隊のなかで即戦力になるのは容易ではないと考えたのです。

こうして図らずも設けられた一年の準備期間は、予備自一般の訓練に参加しながら過ごすことになりました。同時にインターネットや書籍を通じて、予備自制度についてできる限り丹念に調べました。これにあたっては、滋賀地方協力本部のバックアップがあり、資料も豊富にご提供いただきました。

また、予備自補の訓練中には、滋賀地方協力本部の担当官とともに本部長が直々に様子を見にきてくださるなど、丁寧なサポートを実感することができました。このことは、フリーランスの仕事に加えて大学院に入学したことで私生活がパンクしそうななか、訓練招集に応じるための大きな安心材料となりました。

このほど無事に予備自補・技能（英語）の辞令書を受領し、二〇二三年九月から訓練が始まることになりました。新たに予備自補としての身分をもったことで普段の生活にもハリが出て、身が引き締まる思いです。一般から技能への切り替えにより、通常よりもより万全な準備をしてから、これからの訓練に臨むことができます。志願から準備にあたって柔軟に対応してくださった滋賀地方協力本部のみなさまには、深い感謝を申し上げます。今後は個人的な経験をもとに予備自補制度のPRに努めるとともに、与えられた職責をできるだけ長く果たせるよう努力していきたいと思えます。



予備自衛官補招集教育訓練に参加して



自衛隊長崎地方協力本部
予備二等陸曹
寺本 稔

一、予備自衛官を志した理由と訓練に行くまで

私が予備自衛官を志したのは、「何かの役に立つ仕事をしたい」という単純な願望でした。これまでに様々な仕事を転々としていたこともあり、長く続けられるものをやりたいと考えていました。そう考えている時に知ったのが予備自衛官等制度で、技能区分には語学があることも知りました。私が大学生時代に専攻していた韓国語もあり、なおかつ受験条件を満たしていました。「自分のスキルを人だけでなく国のために貢献できること」「今の仕事を続けながら自衛隊勤務ができること」「魅力を感じて、昨年の秋に受験し合格をしました。しかし、予備自衛官になるためには、予備自衛官補として所定の訓練を修了する必要があり、そこからスタートをすることになりました。訓練に行くまでに韓国語の勉強をしたり、自衛隊の広報イベント等に参加した

りと、自身が予備自衛官になったときのイメージを膨らませました。

二、招集教育訓練技能一段階

駐屯地や基地はイベント等で入ったことはあっても、いざ予備自衛官補として駐屯地に入ったときは緊張感がありました。訓練に参加していた人々は九州各地から来ていました。最初のうちはお互いに緊張していたものの、訓練準備や食事・入浴等で徐々に打ち解けることができました。採用された区分（一般と技能）は違っても、目指すゴールは「予備自衛官」ということには変わりありませんでした。翌日から始まった訓練の最初は基本教練（挨拶や敬礼など）で、ただ与えられたとおりではなく、節度を持つてやることの大切さを学びました。基本教育は座学がほとんどで、日本や隣国を取り巻く主要国の背景を知ることができたと同時に、自衛隊は座学もあることを知りました。武器訓練では、実際の銃を手にしたときに「民間人ではない」ということを実感しました。銃の分解結合は自分には難しいと思いました。

三、招集教育訓練技能二段階

翌月の技能二段階で心に残っているのは職務訓練です。私は語学の韓国語ということで、それらが密に関係する施設を訪問したり、自衛隊で使う用語を翻訳したりと自分が予備自

衛官として採用された場合にどのような任務を遂行するのか想像できました。しかし、日常生活で使うような単語が出てこない（専門用語）が多いので、韓国語の勉強を継続・向上させる必要があることを実感しました。

次に、実弾射撃は全体的に当たらなかつたものの、実弾が入った銃を手にしたときは緊張のあまり、手の震えが止まりませんでした。自分の身を守るためでもあり、相手をいとも簡単に傷つけてしまう道具を手にしたときの重みは今でも忘れませんし、忘れないようにしたいと思います。

四、今後について

所定の日数分の訓練を修了し、予備自衛官に任用された今後は、長崎県で招集訓練に参加することになります。中でも私は数少ない韓国語を話せる予備自衛官として、職務訓練で習った任務はもちろん、通訳等で呼ばれる可能性もあります。そのために韓国語の勉強を継続し能力向上を図ると同時に、教育訓練で教わったことも忘れないように、民間人と予備自衛官の二刀流で頑張っていきたいと思えます。予備自衛官は五日間の招集訓練のほかに、方面隊実動演習（特別な招集訓練）に参加可能ということで、それに参加し、自衛隊に貢献することを目標に訓練に臨みたいと思います。

雇用企業の皆様から

共に未来を創ろう！即応予備自衛官



クローバーシステム株式会社
代表取締役
栗田 和成

弊社は住宅用の基礎杭からビル用の基礎杭までを全道一円で営業展開し、土木建築業界と共に、道民の生命・財産を守り、地域に貢献することを目指している企業です。

これまで、弊社には五名の即応予備自衛官が入社し、現在、強力な戦力として活躍中です。即応予備自衛官の入社は、当時の第二師団長との出会いがきっかけで、平成二十九年に私を含む十余名の中小企業の経営者を第二師団にお招きいただき、航空機体験搭乗や駐屯地見学を通して自衛隊の現況について説明を受けるとともに、師団長等との意見交換の場において退職自衛官に対する援護体制や予備自衛官等制度への知識を深めることができました。

また、即応予備自衛官の充足率が伸び悩んでいる現状と、私たち中小企業者の人材・雇用の確保が難しい現状を鑑みると、お互いに

協力し合う必要性を強く認識することができました。

同年、旭川市で開催された自衛隊新卒合同企業説明会において退職予定自衛官との面接の機会をいただき、二名の自衛官を採用することができました。即応予備自衛官は年間三十日間の訓練出頭が必要で、当然のことながら会社の業務から離れることとなります。弊社の繁忙期は雪のない春から秋にかけての期間ですが、「訓練への出頭は冬場だけ」とはなりませんので、社員間のコミュニケーションを図ることを重視し、そうすることで訓練に赴く即応予備自衛官の任務の重要性を社員もよく理解するようになり、社員全員が気持ちよく送り出しています。

平成元年創業の弊社は、令和六年に設立三十五周年を迎えます。中小企業にとって、企業存続の大きな要素の一つは、社員年齢に偏りがないことです。どの地方企業も理念の中に「地域貢献」を掲げていますが、地域貢献だけでは若者の入社は見込めません。若者は将来にわたり永続的に存続する企業を求めます。そのためには、切れ目のない人員の補充が欠かせません。バランスの取れた社員構成が重要だと思えます。

前にふれたように、今日に至るまで五名の即応予備自衛官を採用しましたが、令和六年

四月にも新たに一名の採用が決定しております。これも偏に自衛隊のご協力があったのことに感謝しております。私は「社員一人ひとり、皆が幹部社員たれ」と話しています。地域社会の一員として気概と責任を持って行動することで、若者は大きな成長を遂げることができま。弊社が彼らにとって次のステップとなる「踊り場」であってもいいと思っています。少子高齢化と人材難のご時世にあつて、最近つくづく思います。それは中小零細企業にとって、経営者にとって「商い」とは、お金を儲けることではなく、人を育てて未来につなぐ、持続可能な社会を構築することを一義とし、結果として国を守ることに貢献できることだと思っております。皆さんと共に明るい希望ある未来を築きましょう。

即応予備自衛官を雇用して



株式会社NPK
代表取締役
児玉 和博

弊社は、一九七七年に社名を西日本パトロール株式会社として設立し、今年で創業四七

年目を迎えます。二〇〇五年には、株式会社NPKに改称し、N(Active)地域社会においてP(Paramount)不可欠なK(Keyword)とされるよう、警備業を柱に、指定管理事業、介護事業、農業生産法人、ワイナリー事業など多様な業務を通して「安心・安全への徹底提案」と「多様なニーズに応える取組」により皆さまに「ゆとりある暮らしへのサポート」の実現ができるよう取り組んできております。そして総合サービス業として宮崎県内を中心に大分、名古屋、首都圏など一二拠点で事業展開し、約六五〇名の従業員一人ひとりが「美しい仕事ができる」会社を目指し日々自己研鑽に努めています。

これまで大変多くの自衛隊出身の方が活躍してくださり(一九八九年〜三二〇名の入社。現職六〇名)、その責任や仕事への取り組み姿勢、規律のある言動などそれぞれの強みを活かしながら長年勤めていただいております。即応予備自衛官としても現在四名の方が在籍され、業務を両立しながら現送・管制・交通警備など様々な業務を担っていただいております。弊社では、長く前向きに仕事をしていただけるよう、教育・人材育成にも力を入れ、また個々人の生活環境を考慮しつつ柔軟な働き方ができる体制をつくっておりますので、これ

からも幅広い業務へのチャレンジをお待ちしております。

二〇〇三年『退職自衛官の就職援護に対する感謝状』陸将 森 勉様、二〇〇五年『退職自衛官の再就職に対する感謝状』一等 陸佐 立花 尊頭様、二〇一〇年『就職援護業務に対する感謝状』防衛大臣 北澤 俊美様、二〇二三年二月には、自衛隊宮崎地方協力本部長様より、防衛基盤の充実発展特に退職自衛官の方の就職の援助において、弊社のこれまでの実績に対し「感謝状」を授与していただきました。

今後とも、自衛隊の皆様からのお力をいただきながら相互協力、相互理解を深めていき、退官後の新たな職場として活躍いただけることを願っております。

雇用を通じての社会貢献



沖繩総合警備保障株式会社
人事部教育研修課(兼)人事課
課長
安慶名 光博

弊社は一九六八年(昭和四十三年)十二月に沖縄県那覇市に設立し、現在は宜野湾市に本

ご家族の皆様から

私の妻は予備自衛官



第七特科連隊第一大隊
第二射撃中隊
三等陸曹
添田 優駿

大学時代に米国留学経験を持つ私の妻は、今は予備自衛官として活躍しています。結婚後、妻は英語を活用できる場面が少なく、苦悩することもありましたが、予備自衛官には通訳の仕事があることを知り、興味を持ち始めたと聞いています。

予備自衛官補の訓練では、育児との両立ができるか心配していましたが、訓練部隊がしっかりとフォローしてくれました。妻が予備自衛官になることを応援し、育児と仕事の両方を効果的にこなすためのサポートをしてくれました。

妻が予備自衛官として働き始めてからは、英語の能力も向上しました。仕事の中で英語を使う機会が増え、自分の持っている能力を存分に発揮できており、部隊内で自分の意見をはっきりと伝えられるようになったそうです。

社を構え、その他県内に四拠点(北部支社、久米島営業所、八重山営業所、宮古営業所)を展開、ブランド名であるALSOCKの名の

下(ALWAYS SECURITY OK)、常駐警備、機械警備、空港保安警備、現金輸送警備などを中心にお客様の「安全」と「安心」を守る事業活動を全社員が一丸となって、日々推進しています。

現在、弊社には即応予備自衛官が三名、予備自衛官が二名在籍しており、四名は管理職、一名は那覇空港の保安検査員として、自衛官時代に培われた規律心や強い責任感、チームワークなどをいかに発揮していただき、即戦力として活躍していただいております。

予備自衛官等の訓練と社業との両立は、決して簡単なことではないと思いますが、弊社としては今後も予備自衛官等が安心して訓練に行けるような環境づくり(バックアップ)を行うことで雇用を通じて社会貢献していく所存でございます。

即応予備自衛官と家庭



自衛隊福岡地方協力本部
即応予備二等陸曹
仲 宏進
妻 仲 知子

主人と結婚して十八年の月日が経ちましたが、結婚当初から即応予備自衛官をしながら車の整備士の仕事をしています。即応予備自衛官の夜間訓練や射撃訓練、私が経験したこともない訓練ばかりですが、二十一年間継続して頑張っています。

子供と自衛隊の記念行事に行ったことがあります。普段近くで見ることができない自衛隊車両や展示品、模擬戦闘訓練を見て子供と一緒に興奮しました。また、資料館を見学し、歴史を知ることができて子供の勉強にもなりました。これからも家族で参加できる行事を楽しみにしています。

主人が元気なおかげで来年の春には新しい我が家でご過ごすことになっています。休日には野球やソフトボールの試合、地域の消防団や行事にも参加して毎日忙しく生活していますが、これからも無理をせず仕事との両立して頑張ってください。



米国との国際交流の場というのは大変なプレッシャーだと思えますが、その中においても堂々と会話し、他国とのコミュニケーションを円滑に行う姿は本当にかっこいいです。私にとって妻は、自分の自衛官としての活動の一番の励みです。彼女の存在が私を支え、前に進む力を与えてくれます。

最後に愛する妻へ、はじめは予備自衛官になることに不安を感じていました。反対しようとも思いましたが、訓練を終えて帰ってきたときの活き活きとした顔と、今までの活動を通して、予備自衛官になった選択は間違っていないかったんだなと感じています。これからも協力し合いながら、共に訓練、育児、家庭生活を頑張っていきましょう。これからもよろしく願います。

常備自衛官から

「仲間」との再会



東部方面システム通信群
第二〇五基地システム通信大隊
三等陸佐

増田 信寛

私は、現在中隊長として勤務していますが、これまでの勤務経験で人事業務に従事していたこともあり、有事の際における予備自衛官等の戦力は、昨今の安全保障環境等を踏まえると、非常に重要なものであると認識しています。

このため、私は、部隊勤務を通じて、定年退職、任期満了退職、依願退職などを予定する隊員に対し、必ず予備自衛官等制度について、まずは知ってもらうことを第一にお話をします。それは、特別なことではなく、予備自衛官等の必要性、運用場面、手当・処遇、招集訓練回数及び内容についてです。なんとなく知っていた予備自衛官等制度について一歩踏み込んで推奨することで、勇気をもってその一歩を進めてくれます。また、退職時には部隊（原隊）に対する愛着もあることから、

部隊との繋がりを継続するという意味でも推奨しやすいと思います。現に、予備自衛官招集訓練に参加された部隊OBの方が部隊に顔を出した際には、「あいつは元気にやっていますか？」「みんな頑張ってますよ。」など、互いの近況を報告し合い、訓練に対するモチベーションの向上につながっています。このように、戦力を維持するためだけでなく、退職後も招集訓練において「仲間」と再会し、自衛隊との関係を構築・維持でき、有事の際には、国防という崇高な使命感・緊張感をもって、「仲間」とともに直接国民の生命財産を守る任務に邁進できることが予備自衛官等制度の魅力であると感じています。

即応予備自衛官 招集訓練教官として



西部方面後方支援隊
第一〇一弾薬大隊
陸曹長

篠原 浩二

第二〇一弾薬大隊は、平成三十年三月に新編されたコア部隊であり、方面隊の各部隊に対する弾薬類の補給等を行う部隊です。私は第一中隊の小隊長として即応予備自衛官招集訓



練の特技訓練、射撃等を担当しています。中隊には、約六十名の即応予備自衛官が所属し、職業、年齢、現役時の職種・勤務年数、演習経験の有無もバラバラです。このため自衛官としての知識や技術は個人差が大きく、常備自衛官への依存度が高い者もあり、各種事態での厳しい任務の遂行には「即応」の重みへの意識の高揚が必要だと感じました。このため、大隊の任務と役割を正しく伝え、本音で話せる人間関係の構築と相互理解に努め、「厳しい！」と言われても訓練では必要なレベルを追求しました。今では思い出の二つです。教育訓練では、修得度合いに応じ教え方の工夫や補備教育を行い、齊一な練度到達に努め、一昨年から演習や実弾による爆破処理訓練を開始し、より実戦的で緊張感を伴う訓練の中、更なる実力向上に取り組んでいます。

今後も、引き続き中隊の実績・成果を積み上げるとともに事故無く後輩の育成に精進したいと思います。

地方協力本部担当者から

即応予備自衛官担当として



自衛隊帯広地方協力本部
防衛事務官

鎌田 有衣子

私は、自衛隊帯広地方協力本部援護課において即応予備自衛官担当として令和三年四月から勤務しております。

即応予備自衛官業務も地本勤務も帯広地本が初めてで当初は皆様に様々なご指導をいただきながら奮闘する毎日です。

着任当時、新型コロナウイルス感染症はまだ二類で、感染予防については今以上に敏感な時期でした。それは即応予備自衛官招集訓練にも大きい影響を与え、招集訓練の中止が続出する中での業務や調整は頭を悩ませることも多く大変でした。そしてそれ以上に即応予備自衛官と雇用企業の皆様方は多くの苦労があったと思います。ですが、そのような状況でも可能な限り業務調整をしてくださり訓練に出られるようにしていただきました。本日に大変な調整をして来てくださった即応予

備自衛官及び雇用企業の皆様には頭が下がる思いです。

担当として即応予備自衛官と雇用企業の皆様方の思いに伝えるためにも、より一層丁寧なサポートや日程調整が出来るよう努めてまいります。即応予備自衛官、雇用企業の皆様方におかれましては引き続き変わらぬご理解とご協力をお願い申し上げます。



即応予備自衛官業務について



自衛隊青森地方協力本部
防衛事務官

樋口 朋生

私は令和五年四月から、即応予備自衛官係として勤務しています。着任当初は初めての即応予備自衛官業務ということもあり、何もかもが手探りの状態でした。

担当している業務の中で最も苦労しているのが即応予備自衛官の採用業務です。採用目標達成のために予備自衛官招集訓練での勧誘、元自衛官からの掘り起こし等、あらゆる手段をもって志願者情報の収集を行わなければなりません。

特に予備自衛官招集訓練における勧誘は対象者と直接話せる貴重な機会です。しかし、私は自衛官についての知識が乏しく、予備自衛官の方とお話する際に何を話したらいいのかと苦労する場面も多かったです。そこで、自分から相手の方に興味を持って接することで予備自衛官や自衛隊について見識を深め、自然と会話が続いていくようになりました。業務に慣れていく中で、元自衛官の方々へ

予備自衛官等福祉支援制度をご存知ですか？

予備自衛官等福祉支援制度とは

一人一人の互いの結びつきを、より強い「きずな」に育てるために、また同胞の「喜び」や「悲しみ」を互いに分かちあうための、予備自衛官・即応予備自衛官・予備自衛官補同志による「助け合い」の制度です。
 ※本制度は、防衛省の要請に基づき隊友会が運営しています。



制度の特長

割安な「会費」で慶弔の給付を行います

会員本人の死亡150万円、配偶者の死亡15万円、子・父母の死亡3万円、結婚・出産祝金2万円、入院見舞金2万円。

招集訓練出頭中における災害補償

福祉支援制度に加入した場合、毎年の訓練出頭中(出頭、帰宅における移動時も含む)に発生した傷害事故に対し補償を行います。(現在加入されている傷害保険と合わせて給付されます)
 ※災害派遣出動中における補償にも適用されます。

「相互扶助功労金」の給付を行います

3年以上加入し脱退した場合には、加入期間に応じ「相互扶助功労金」の給付を行います。



加入資格

予備自衛官・即応予備自衛官または予備自衛官補である者。ただし、加入した後、予備自衛官・即応予備自衛官または予備自衛官補を退職した後も、満64歳に達した日後の8月31日まで継続することができます。

会費

予備自衛官・予備自衛官補... 毎月 950円
 即応予備自衛官... 毎月 1,000円
 ※3カ月分まとめて3カ月ごとに口座振替にて徴収します。



お問い合わせ

公益社団法人 隊友会 事務局(公益課)

〒162-8801 東京都新宿区市谷本村町5番1号 電話03-5362-4873

予備自衛官等福祉支援制度とは

- この制度は、予備自衛官・即応予備自衛官または予備自衛官補本人、配偶者、子供及び父母が亡くなられた時に死亡弔慰金、本人の結婚や子供が誕生したときに祝金、そして傷病により入院(連続30日以上)したときに入院見舞金が支給されます。
- この制度は、招集訓練時の不慮の事故(死亡・後遺障害・入院・通院)の場合は災害補償が適用されます。
- 3年以上加入し、脱退した場合には、加入期間に応じ「相互扶助功労金」が給付されます。

加入資格について

予備自衛官・即応予備自衛官または予備自衛官補である者。ただし、加入した後、予備自衛官・即応予備自衛官または予備自衛官補を退職した後も、満64歳に達した日後の8月31日まで継続することができます。

会費について

- 予備自衛官・予備自衛官補... 毎月950円
- 即応予備自衛官... 毎月1000円

※3カ月分をまとめて3カ月毎に指定の口座より自動引き落としになります。

注：予備自衛官等を退職した時、制度脱退の連絡がないと、会費は引き続き引き落としになりますのでご注意ください。

送付する予備自衛官制度の広報資料を作成することになりました。作成にあたり勧誘の際に予備自衛官の方々とお話しした内容を基に元自衛官が興味を持つ点に絞った構成にしました。正直なところ送付しても読んでもらえないか不安もありましたが、広報資料を送付した方から即応予備自衛官に志願したいとの連絡を受けました。その際、志願したきっかけを伺うと私の資料を読んで即応予備自衛官に興味を持ったと仰っていたので、非常に嬉しく思い、業務へのやりがいを感じました。今後も一人でも多くの方に即応予備自衛官の魅力を知ってもらうために、粘り強く勧誘を続けていきたいと思っています。

予備自衛官等雇用企業訓練見学

自衛隊佐賀地方協力本部
防衛事務局

宮原 恵利香



私は、令和三年四月から予備自衛官等業務に携わっています。即応予備自衛官の充足・採用目標達成のため、日々アイデアを出して勤務しています。

自衛隊佐賀地方協力本部では、即応予備自衛官訓練部隊の協力を得て、隊員の激励及び制度広報を目的とし、雇用企業主等の訓練見学を実施しております。特に、予備自衛官等制度にご理解頂けない企業に、積極的に声掛けし、制度広報、出頭環境醸成に努めています。令和五年度は、即応予備自衛官招集訓練における小銃射撃訓練の見学を実施しました。参加者は、射場に響き渡る射撃音の大きさと振動を体感し、三〇〇メートル先の標的をとらえる高度な技術に感心していました。射撃訓練後は、防弾チョッキを試着し、その重量に驚嘆し、実戦では、更に鉄板を挿入したうえで、数十キロの装備品を背負い行進するなどの説明を受け、即応予備自衛官の体力と忍耐力に感心していました。

また、予備自衛官五日間招集訓練においては、防護マスク及び化学防護衣の装着、小銃の分解・結合、ヘリコプター等装備品を見学し、最後に、隊員食堂で昼食を喫食して自衛官気分を体験して頂きました。

今後も、訓練見学等を企画し、自衛隊及び予備自衛官等制度に理解を深めてもらうとともに、良好な関係を築けるよう取り組んでいきたいと思っています。



誓 宣

【予備自衛官】

私は、予備自衛官たるの責務を自覚し、常に徳操を養い、心身を鍛え、訓練招集に応じては専心訓練に励み、防衛招集、国民保護等招集及び災害招集に応じては自衛官として責務の完遂に努めることを誓います。

【即応予備自衛官】

私は、即応予備自衛官たるの責務を自覚し、常に徳操を養い、心身を鍛え、訓練招集に応じては専心訓練に励み、防衛招集、国民保護等招集、治安招集及び災害等招集に応じては自衛官として責務の完遂に努めることを誓います。

【予備自衛官補】

私は、予備自衛官補たるの責務を自覚し、常に徳操を養い、心身を鍛え、教育訓練招集に応じては専心教育訓練に励むことを誓います。

予備自衛官の歌 光かざして

作詞 太田武彦
作曲 山村英雄

一、のぼる朝陽よ さわやかに
平和みなぎる 明けの空
いま現われ 山河に
若い血潮は もえあがる
ああ われら 栄えある予備自衛官

二、はずむ心よ わが友の
職場持場は わかれても
手と手をつなぐ どこまでも
固い誓いを この胸に
ああ われら 栄えある予備自衛官

三、虹のかなたよ 晴れわたる
理想をかかげて たからかに
この日本を 守ろうと
使命は重く とこしえに
ああ われら 栄えある予備自衛官

■読者プレゼント（ご意見大募集）

今年で、55号となるパワーリザーブ（年1回発行）ですが、読者の皆さんからのご意見を募集し、さらにパワーアップさせていただきたいと思えます。

メール又は、ハガキに次の3つの質問の回答と、郵便番号、住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記の上、ご意見ください。

質 問

1. 本誌の記事等で関心があった(面白かった)ところ
2. 今後、記事に追加して欲しいこと
3. 本誌に対するご意見、感想など、御書き添えください。

ご意見いただいた方の中から抽選で20名様に、下記予備自衛官制度広報グッズをお送りします。

※締切 2024年10月31日まで
皆様のご意見お待ちしております！



オリジナル今治製ハンカチ（約25cm×25cm）
※デザインなどは変更になる場合があります

連絡先：防衛省陸上幕僚監部人事教育部人事教育計画課予備自衛官室パワーリザーブ担当者

〒162-8802 東京都新宿区市谷本村町5-1
E-mail: ppl_rp_office_g@gso.mod.go.jp

